

実務経験のある教員による授業科目一覧

開設部局名： 人文学部

教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	人文学部	文化学科	環境学概論	2	朴恵淑	三重県の環境影響評価委員会委員、地球温暖化防止活動推進センター長、中小企業への環境認証(M-EMS)会長NPO研究会委員、地球温暖化部会会長、環境行動計画モデル事業推進協議会委員ほか、長年近隣の自治体で環境保護関連の各種委員として実務経験を積んでいる。	本講義は、「地域及び地球規模の環境問題、特に、四日市公害、越境性大気汚染、PM2.5、地球温暖化、生物多様性、ゴミ問題などを中心とする、環境地理学の本質及び役割について学ぶ。」担当教員が近隣地域の環境問題対策に自治体と共に取り組んできた実務経験が深く関連した講義である。
専門	人文学部	文化学科	自然環境論B	2	朴恵淑	三重県の環境影響評価委員会委員、地球温暖化防止活動推進センター長、中小企業への環境認証(M-EMS)会長NPO研究会委員、地球温暖化部会会長、環境行動計画モデル事業推進協議会委員ほか、長年近隣の自治体で環境保護関連の各種委員として実務経験を積んでいる。	本講義では、「国連持続可能な開発目標(SDGs)について」学習し、その上でさらに具体的に「三重県の持続可能な地域創生について」考察していく。担当教員がNPO団体と連携して、環境問題に取り組んでいた経験が生かされた講義である。
専門	人文学部	文化学科	アジア・オセアニア地誌演習E	2	朴恵淑	三重県の環境影響評価委員会委員、地球温暖化防止活動推進センター長、中小企業への環境認証(M-EMS)会長NPO研究会委員、地球温暖化部会会長、環境行動計画モデル事業推進協議会委員ほか、長年近隣の自治体で環境保護関連の各種委員として実務経験を積んでいる。	本講義では、「三重県の自然と人間との関係を環境地理的に接近する方法を学習する」。具体的には三重県の各自治体において「アンケート調査、聞き取り調査」を実施し、さらに国連持続可能な開発目標(SDGs)に関する三重県内の講演会やシンポジウムに積極的に参加するなど、学外での活動を通して具体的な知識、経験を獲得することを目指す。担当教員が長年近隣地域においておこなってきた調査実務の経験が深く関連した講義である。
専門	人文学部	文化学科	アジア・オセアニア地誌演習F	2	朴恵淑	三重県の環境影響評価委員会委員、地球温暖化防止活動推進センター長、中小企業への環境認証(M-EMS)会長NPO研究会委員、地球温暖化部会会長、環境行動計画モデル事業推進協議会委員ほか、長年近隣の自治体で環境保護関連の各種委員として実務経験を積んでいる。	本講義では、「ユネスコ持続可能な開発のための教育(ESD)を通じた、地域に根ざし、世界へ通用するグローバル環境人材となるための実践環境活動を行う。」ここでは担当教員がNPO団体と連携して、環境問題に取り組んでいた経験が生かされた講義である。

専門	人文学部	文化学科	日本考古学実技演習A	2	小澤毅	奈良文化財研究所における文化財研究、特に発掘調査の実務経験	本講義は「考古学に不可欠な基礎的技術」を、実際に現場で使われる様々な機器を用いた実習を通して修得することを目的としている。その実習には担当教員が長年の実務の中で培ってきた経験・技術が深く関係している。
専門	人文学部	文化学科	日本考古学実技演習B	2	小澤毅	奈良文化財研究所における文化財研究、特に発掘調査の実務経験	本講義は「遺構や遺物の記録と資料化のために必要な基礎的実技を学習する」が、ここでは担当教員が長年の文化財調査の実務経験で得た知見が深く関係している。
専門	人文学部	文化学科	考古学・文化財学概論A	2	小澤毅	奈良文化財研究所における文化財研究、特に発掘調査の実務経験	本講義では、「考古学・文化財学の基礎や対象となる資料の特性を理解し、研究および公開・利用の方法」を学習する。担当教員が長年の実務の中で培ってきた経験・技術がいかされた講義である。
専門	人文学部	文化学科	考古学・文化財学概論B	2	小澤毅	奈良文化財研究所における文化財研究、特に発掘調査の実務経験	本講義では、「考古学・文化財学の基礎や対象となる資料の特性を理解し、研究および公開・利用の方法」を学習する。担当教員が長年の実務の中で培ってきた経験・知識・技術をいかして行なう講義である。
専門	人文学部	文化学科	美術理論・美術史演習A	2	藤田伸也	財団法人大和文華館において学芸員として勤務し、美術作品の研究および展示に携わった実務経験	本講義では、「日本工芸(陶磁、漆工、金工、木工、染織など)の形と意匠」について「広く文化史の中で捉えて、その機能と意味」を学習する。ここでは担当教員が長年の実務の中で培ってきた経験・知識がいかされている。
専門	人文学部	文化学科	美術理論・美術史演習B	2	藤田伸也	財団法人大和文華館において学芸員として勤務し、美術作品の研究および展示に携わった実務経験	本講義では、「世界の工芸(陶磁、ガラス、金工、木工、染織など)の形と意匠」を特に「ヨーロッパ陶磁と中国陶磁の関わり」に注目して学習する。ここでは担当教員が長年の実務の中で培ってきた経験・知識がいかされている。
専門	人文学部	文化学科	美術史C	2	藤田伸也	財団法人大和文華館において学芸員として勤務し、美術作品の研究および展示に携わった実務経験	本講義では、「西洋の美術を対象」として美術史を学ぶ。西洋絵画の見方と代表的名品について学ぶことを通して、文化における美術の重要性、絵画の機能と価値について考察する。ここでは担当教員が長年の実務の中で培ってきた経験・知識がいかされている。
専門	人文学部	文化学科	美術史D	2	藤田伸也	財団法人大和文華館において学芸員として勤務し、美術作品の研究および展示に携わった実務経験	本講義では、「日本美術を対象」として美術史を学ぶ。「日本絵画の見方と代表的名品について理解し」、「美術作品を通して文化を」学び、「絵画の機能と価値」について考察する。ここでは担当教員が長年の実務の中で培ってきた経験・知識がいかされている。

専門	人文学部	法律経済学科	経営学総論演習〔通年〕	4	青木 雅生	企業経営者あるいはCSRに関する担当者	企業とは何か、マネジメントとはどのようなものかということについての基礎知識を学び考える。大企業はもちろんのこと三重をはじめとする地域に根差した中小企業などの具体的な事例と理論との往復の中で学び考える。
専門	人文学部	法律経済学科	特殊講義 協同組合論	2	青木 雅生	種々の協同組合の組織において現場あるいは運営を担当	協同組合とは何か、どのような役割があり実践があるのか、そして協同組合の今後について、学び考える。
専門	人文学部	法律経済学科	地域から考える文化と社会	2	麻野 雅子	東海圏の地域課題の解決に資する事業。地域活性化に取り組む企業やNPOで働く人、地域文化研究に取り組む博物館等の職員、地方自治体の職員など、実務経験のある複数の方々が講師となる。	実際に地域で活躍しておられる実務家の方々の話を聞き、地域の抱える社会的諸課題や地域固有の文化について知る。
専門	人文学部	法律経済学科	地域経済論／ 特殊講義 地域経済論A・B	4	朝日 幸代	日本経済新聞社東京本社データバンク局では財務・商品・経済データベース構築と経済モデル分析、経済予測の業務を行った。四日市地域経済研究所では地域経済分析研究の業務を行った。	経済理論をもとに地域経済データを用いた実証分析結果や地域経済の実態を検証するための考え方、方法を学ぶ講義である。
専門	人文学部	法律経済学科	地域経済分析	2	朝日 幸代	日本経済新聞社東京本社データバンク局では財務・商品・経済データベース構築と経済モデル分析、経済予測の業務を行った。四日市地域経済研究所では地域経済分析研究の業務を行った。	実証分析の方法(計量経済学、統計学)を実習形式で学び、様々な地域経済分析を行う講義である。
専門	人文学部	法律経済学科	地域経済論演習〔通年〕	4	朝日 幸代	日本経済新聞社東京本社データバンク局では財務・商品・経済データベース構築と経済モデル分析、経済予測の業務を行った。四日市地域経済研究所では地域経済分析研究の業務を行った。	学生が望む経済研究のテーマに合わせた分析の方法(計量経済学、統計学)を学び、研究報告を通じて、経済学の理解を深める講義である。
専門	人文学部	法律経済学科	地方自治論	4	岩崎 恭彦	自治体の各種審議会委員、例として情報公開審査会	例として情報公開・住民参加の法としくみを講義の一内容とすること
専門	人文学部	法律経済学科	環境法	2	岩崎 恭彦	環境分野での自治体の審議会委員	自治体環境行政を講義内容に適時盛り込んでいること
専門	人文学部	法律経済学科	地方自治論演習	4	岩崎 恭彦	環境分野での自治体の審議会委員	環境をめぐる「地方自治と法」を演習の主題とすること

専門	人文学部	法律経済学科	コーポレートファイナンス／ 特殊講義 コーポレートファイナンス	2	江原 明彦	政府系金融機関(日本政策金融公庫)において主に中小企業の財務分析や融資などを担当	企業の資金調達方法、中小企業金融の特徴、経営分析、創業(ビジネスプランなど)の基礎知識を、金融実務に即した講義により、習得することを目的とする。
専門	人文学部	法律経済学科	社会保障論	2	諏訪 克之	国及び地方自治体での社会保障施策の企画立案	政策形成過程や最新の政策動向の解説
専門	人文学部	法律経済学科	福祉経済論	4	諏訪 克之	国及び地方自治体での社会保障施策の企画立案	政策形成過程や最新の政策動向の解説
専門	人文学部	法律経済学科	福祉経済論演習〔通年〕	4	諏訪 克之	国及び地方自治体での社会保障施策の企画立案	政策形成過程や最新の政策動向の解説
専門	人文学部	法律経済学科	現代裁判論	2	森 一恵	弁護士としての民・刑事裁判等に関する実務	裁判実務やそれを踏まえた課題に関する授業

文化学科
法律経済学科

24
42

実務経験のある教員による授業科目一覧

開設部局名：教育学部

コース	授業科目名	単位	授業担当教員名	実務経験の内容（実務家または実務家活用）	シラバスとの関連
国語・日本語	国文学概説	2	和田 崇	実務家（元高等学校国語科非常勤講師）	第1～15回すべて
	国文学講義・近代Ⅰ/国文学講義Ⅰ	2	和田 崇	実務家（元高等学校国語科非常勤講師）	第1～15回すべて
	国文学講義・近代Ⅲ/国文学講義Ⅳ	2	和田 崇	実務家（元高等学校国語科非常勤講師）	第1～15回すべて
	国文学演習・近代Ⅱ/国文学演習Ⅰ	1	和田 崇	実務家（元高等学校国語科非常勤講師）	第1～15回すべて
	国文学演習・近代Ⅳ/国文学演習Ⅳ	1	和田 崇	実務家（元高等学校国語科非常勤講師）	第1～15回すべて
	国語教育ゼミナールⅢ	1	守田 庸一	実務家（元高校教諭（国語）・中学校非常勤講師（国語））	第1～15回すべて
	国語科教育法Ⅰ	2	守田 庸一	実務家（元高校教諭（国語）・中学校非常勤講師（国語））	第1～15回すべて
	国語教育ゼミナールⅣ	1	守田 庸一	実務家（元高校教諭（国語）・中学校非常勤講師（国語））	第1～15回すべて
	国語科教育法Ⅱ	2	守田 庸一	実務家（元高校教諭（国語）・中学校非常勤講師（国語））	第1～15回すべて
	初等教科教育法（国語）/国語教材研究	2	守田 庸一	実務家（元高校教諭（国語）・中学校非常勤講師（国語））	第1～15回すべて
	日本語教授法	2	服部 明子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	日本語教育学概説	2	服部 明子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	言語習得論	2	服部 明子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	言語研究Ⅰ	2	服部 明子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	日本語教育実習	2	服部 明子・神山 英子・林 朝子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	多文化コミュニケーション	2	神山 英子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	異文化間教育	2	神山 英子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	日本語教育の現状と課題	2	神山 英子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	日本語表現	2	神山 英子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	日本語教育学研究Ⅰ	2	神山 英子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	日本語教育学研究Ⅱ	2	神山 英子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	言語研究Ⅱ	2	神山 英子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
	日本語教育学研究Ⅲ	2	林 朝子	実務家（日本語教師）	第1～15回すべて
社会	社会科教育ゼミナールⅠ/社会科教育ゼミナール	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	第1～15回すべて
	社会科教育ゼミナールⅡ/社会科教育ゼミナール	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	第1～15回すべて
	社会教材研究(高学年内容)/初等教科教育法(社会)	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	第1～15回すべて
	社会教材研究(中学年内容)/初等教科教育法(社会)	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	第1～15回すべて
	社会科教育法Ⅰ	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	第1～15回すべて
	社会科授業論	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	第1～15回すべて
	地理・歴史科教育法(地理領域)	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	後期第1～15回すべて
	教職実践演習(幼小社会)	2	永田 成文	実務家（小・中・高等学校教諭）	第6～15回
	社会科基礎	2	永田 成文・大坪 慶之・内田 秀昭	実務家（小・中・高等学校教諭）	15回中4回分
数学	代数学入門	2	露峰 茂明	実務家（附属中学校校長）	第1～15回すべて
	代数学講究	4	露峰 茂明	実務家（附属中学校校長）	第1～30回すべて
	幾何学要論Ⅲ	2	新田 貴士	実務家（附属中学校校長）	第1～15回すべて
	幾何学要論Ⅳ	2	新田 貴士	実務家（附属中学校校長）	第1～15回すべて
	代数学演習	2	肥田野 久二男	実務家（高等学校・数学・非常勤講師）	第1～30回すべて
	解析学要論Ⅰ	2	肥田野 久二男	実務家（高等学校・数学・非常勤講師）	第1～15回すべて
	解析学要論Ⅱ	2	肥田野 久二男	実務家（高等学校・数学・非常勤講師）	第1～15回すべて
	応用数学要論Ⅲ	2	肥田野 久二男	実務家（高等学校・数学・非常勤講師）	第1～15回すべて
	応用数学要論Ⅳ	2	肥田野 久二男	実務家（高等学校・数学・非常勤講師）	第1～15回すべて
	数学講究A	4	中西 正治	実務家（小学校教諭・中学校・数学・教諭）	第1～30回すべて
	小学校専門数学	2	中西 正治・田中 伸明	実務家（小学校教諭・中学校・数学・教諭、高等学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	算数教材研究/初等教科教育法(算数)	2	中西 正治・田中 伸明	実務家（小学校教諭・中学校・数学・教諭、高等学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	数学科教育法Ⅱ	4	田中 伸明	実務家（高等学校・数学・教諭）	第1～30回すべて
理科	基礎化学A	2	市川 俊輔	実務家（元高校常勤講師・高専非常勤講師）	第1～15回すべて
	化学講義Ⅱ	2	市川 俊輔	実務家（元高校常勤講師・高専非常勤講師）	第1～15回すべて
	化学講義Ⅲ	2	市川 俊輔	実務家（元高校常勤講師・高専非常勤講師）	第1～15回すべて
	理科教育ゼミナール	2	荻原 彰	実務家（元高校教諭）	第1～15回すべて
	理科ゼミナール	2	荻原彰・國仲寛人・市川俊輔・後藤太一郎・平山大輔・伊藤信成・栗原行人	実務家（元高校教諭・中学校教諭・企業等研究員）	期間中4回程度

コース	授業科目名	単位	授業担当教員名	実務経験の内容（実務家または実務家活用）	シラバスとの関連
	小学校専門理科A	2	國仲 寛人・市川 俊輔	実務家（元高校常勤講師・高専非常勤講師）	第1、9～15回
	理科教材研究/初等教科教育法(理科)	2	荻原 彰	実務家（元高校教諭）	第1～15回すべて
	理科教育法Ⅰ	2	荻原 彰	実務家（元高校教諭）	第1～15回すべて
	理科教育法Ⅱ	2	荻原 彰	実務家（元高校教諭）	第1～15回すべて
	理科教育法Ⅲ	2	荻原 彰	実務家（元高校教諭）	第1～15回すべて
	地学講義Ⅰ	2	伊藤 信成	実務家（企業等研究員）	第1～15回すべて
	地学講義Ⅱ	2	伊藤 信成	実務家（企業等研究員）	第1～15回すべて
	理科実験（地学）	1	伊藤 信成・栗原 行人	実務家（企業等研究員・博物館学芸員）	第1～15回すべて
	地学実験	2	伊藤 信成・栗原 行人	実務家（企業等研究員・博物館学芸員）	第1～30回すべて
	基礎地学B	2	栗原行人	実務家（博物館学芸員）	第1～15回すべて
	地学講義Ⅲ	2	栗原行人	実務家（博物館学芸員）	第1～15回すべて
	小学校専門理科B	2	後藤太一郎・伊藤信成・栗原行人	実務家（企業等研究員・博物館学芸員）	期間中8回程度
音楽	器楽（伴奏法・合奏）Ⅰ	1	小畑 真梨子	小学校非常勤講師（音楽専科）	第1～15回すべて
美術	総合美術基礎論	2	関俊一・山田康彦・山口泰弘・上山浩・岡田博明・奥田真澄	実務家（中学校教諭・小学校校長）	期間中3回程度
	小学校専門美術A	2	上山 浩・山田 康彦	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	図工教材研究B/初等教科教育法(図工B)	2	上山 浩	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	図工教材研究演習	1	上山 浩	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	造形メディア基礎演習	2	上山 浩	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	美術科教育法Ⅰ	2	上山 浩	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	美術科教育法Ⅲ	2	上山 浩	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	美術教育演習ⅠB	2	上山 浩	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	美術教育演習ⅡB	2	上山 浩	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
	美術教育演習Ⅲ	2	上山 浩・山田 康彦	実務家（中学校教諭・小学校校長）	第1～15回すべて
保体	野外運動Ⅱ（キャンプ）/野外運動	1	岡野 昇・富樫健二・重松良祐・加納岳拓	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	保健体育学概説	2	後藤洋子 他	実務家活用（小学校教諭・中学校教諭）	第7～11回
	小学校専門体育A	2	加納岳拓	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	小学校専門体育C	2	重松良祐・大隈節子	実務家活用（附属小学校教諭）	期間中3回程度
	体育教材研究/初等教科教育法(体育)	2	加納岳拓・岡野 昇	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	保健体育科教育法Ⅰ	2	岡野 昇	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	保健体育科教育法Ⅲ	2	岡野 昇	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
技術・ものづくり	技術科教育法Ⅲ	2	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	技術科教育法Ⅰ	2	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	工業科教育法Ⅰ	2	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	工業科教育法Ⅱ	2	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	技術科教育法Ⅳ	2	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	技術科教育法Ⅱ	2	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	技術教育学ゼミナールⅠ	1	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	技術教育学ゼミナールⅡ	1	魚住 明生	実務家(中学校教諭)	第1～15回すべて
	電磁気学	2	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	技術学ゼミナールⅠ（電気）	1	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	電気回路	2	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	電子工学	2	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	電気工学概論	1	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	計測・制御	2	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	技術学ゼミナールⅡ（電気）	1	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師） 実務家活用（中学校技術科教諭）	第1～15回すべて
	電気工学実験実習	1	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	エネルギー変換工学	2	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	工場見学	1	松岡 守	実務家（企業研究員・高校工業非常勤講師） 実務家活用（見学先の企業の方）	第1～15回すべて
	技術学ゼミナールⅠ（材料加工）	1	中西康雅	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	技術学ゼミナールⅡ（材料加工）	1	中西康雅	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	工業数学	2	中西康雅	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	木質材料学	2	中西康雅	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	金属加工学概論	1	中西康雅	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて

コース	授業科目名	単位	授業担当教員名	実務経験の内容（実務家または実務家活用）	シラバスとの関連
情報	木材工学概論	1	中西康雅	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	情報処理工学	2	中西康雅	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	木材加工実習及び製図	1	中西康雅・松本金矢	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	金属加工実習及び製図	1	中西康雅・松本金矢	実務家（高校工業非常勤講師）	第1～15回すべて
	技術学概論	1	松岡 守・魚住明生・松本金矢・中西康雅	実務家（中学校教諭・企業研究員・高校工業非常勤講師） 実務家活用（中学校技術科教諭）	第1, 5～11, 15回
	情報教育概論	2	奥村 晴彦	実務家（高校学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	情報化社会論	2	奥村 晴彦	実務家（高校学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	コンピュータアルゴリズム	2	奥村 晴彦	実務家（高校学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	データ解析入門	2	奥村 晴彦	実務家（高校学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	ネットワーク応用	2	奥村 晴彦	実務家（高校学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	プログラミング実習	1	奥村 晴彦	実務家（高校学校・数学・教諭）	第1～15回すべて
	コンピュータの基礎	2	山守 一徳	実務家（企業研究員）	第1～15回すべて
	データベース	2	山守 一徳	実務家（企業研究員）	第1～15回すべて
	ネットワーク基礎	2	山守 一徳	実務家（企業研究員）	第1～15回すべて
	ソフトウェア応用	2	山守 一徳	実務家（企業研究員）	第1～15回すべて
	情報システム実習	2	山守 一徳	実務家（企業研究員）	第1～15回すべて
	情報処理実習Ⅰ	2	山守 一徳	実務家（企業研究員）	第1～15回すべて
	マルチメディア概論	2	山守 一徳	実務家（企業研究員） 実務家活用（企業研究員）	第6回
家政	消費者教育論	2	吉本 敏子	実務家活用（三重県農林水産部・三重県消費生活センター）	第7回第10回
	被服学概論	2	増田 智恵	実務家（被服専門学校学校非常勤講師）	第1～15回すべて
	被服構成学	2	増田 智恵	実務家（被服専門学校学校非常勤講師）	第1～15回すべて
	食品学	2	磯部 由香	実務家活用（三重県農林水産部）	第13回
	食生活論	2	平島 円	実務家（企業商品開発担当者） 実務家活用（三重県環境生活課）	第14回
	調理科学	2	平島 円	実務家（企業商品開発担当者）	第6回第14回
	家庭電気・機械	2	松本 金矢	実務家活用（リサイクルショップ店長）	第15回
	家庭科教育法Ⅱ	2	吉本 敏子	実務家（高等学校家庭科教諭）	第1～15回すべて
	家庭科教育法Ⅲ	2	吉本 敏子	実務家（高等学校家庭科教諭）	第1～15回すべて
	英語学講義Ⅱ	2	西村 秀夫	実務家（高校非常勤講師・検定教科書編集協力者）	第1～15回すべて
特別支援	人権と教育	2	菊池 紀彦・森脇 健夫・余健・大日方 真史・未定	実務家（病院職員・児童指導員）	第11回～第14回
	知的障害教育論	2	森 浩平	実務家（特別支援学校教諭・福祉職員）	第1～15回すべて
	知的障害者の教育と福祉	2	森 浩平	実務家（福祉職員・特別支援学校教諭）	第1～15回すべて
	特別支援教育概論	2	松浦 直己・菊池 紀彦・郷右近歩・栗田 季佳・森 浩平	実務家（福祉職員・特別支援学校教諭・病院職員・児童指導員）	内9回
	精神医学概論	2	松浦 直己	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	菊池 紀彦	実務家（病院職員・児童指導員）	第1～15回すべて
	病弱者の心理・生理・病理	2	菊池 紀彦	実務家（病院職員児童指導員）	第1～15回すべて
	障害者心理演習Ⅲ	2	菊池 紀彦	実務家（病院職員・児童指導員）	第1～30回すべて
	軽度発達障害者の心理・生理・病理	2	松浦 直己	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	聴覚障害教育概論	2	栗田 季佳	実務家活用（福祉職員）	内1回
	軽度発達障害教育	2	森 浩平	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	重度重複障害教育	2	菊池 紀彦	実務家（病院職員・児童指導員）	第1～15回すべて
	障害者保健演習Ⅳ	2	松浦 直己	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	知的障害者の心理・生理・病理	2	松浦 直己	実務家（小学校教諭）	第1～15回すべて
	特別支援教育観察参加	2	松浦 直己・菊池 紀彦・郷右近歩・栗田 季佳・森 浩平	実務家活用（教育・福祉・司法）	第1～15回すべて
幼児	保育内容特別研究Ⅰ	2	吉田 真理子	実務家（保育所保育士）	第1～15回すべて
	言葉	2	吉田 真理子	実務家（保育所保育士）	第1～15回すべて
	保育内容総論	2	吉田 真理子	実務家（保育所保育士）	第1～15回すべて
	障がい児保育	2	吉田 真理子	実務家（保育所保育士・心理判定員）	第1～15回すべて
	表現ⅠA	1	吉田 真理子	実務家（保育所保育士）	第1～15回すべて
	保育内容特別研究Ⅱ	2	吉田 真理子	実務家（保育所保育士）	第1～15回すべて
	表現ⅠB	1	吉田 真理子	実務家（保育所保育士）	第1～15回すべて
	人間関係	2	吉田 真理子	実務家（保育所保育士）	第1～15回すべて
	保育実習指導Ⅰ	2	吉田 真理子・水津 幸恵・富田 昌平・須永 進	実務家（保育所保育士）・実務家（幼稚園教諭）	第1～15回すべて

コース	授業科目名	単位	授業担当教員名	実務経験の内容（実務家または実務家活用）	シラバスとの関連
学校教育	保育実習指導Ⅱ	1	吉田 真理子・水津 幸恵・富田 昌平・須永 進	実務家（保育所保育士）・実務家（幼稚園教諭）	第1～15回すべて
	乳児保育	2	水津 幸恵	実務家（幼稚園教諭）	第1～15回すべて
	保育相談支援	2	水津 幸恵・富田 昌平	実務家（幼稚園教諭）	第1～7回・第15回
	教育相談/教育相談Ⅱ	2	瀬戸 美奈子	実務家（スクールカウンセラー）	第1～15回すべて
	発達臨床	2	瀬戸 美奈子	実務家（スクールカウンセラー）	第1～15回すべて
	心理アセスメントⅡ	2	瀬戸 美奈子	実務家（スクールカウンセラー）	第1～15回すべて
	教育心理学PBLセミナー	2	中西 良文・松浦 均・瀬戸 美奈子・南 学	実務家（高等学校教諭）	第1～15回すべて
	学校教育実地研究Ⅲ	2	南 学・中西 良文・松本 金矢・松浦 均	実務家（幼稚園・小学校・中学校教諭）	第10～15回
	教育相談/教育相談Ⅰ	2	瀬戸 健一	実務家（高等学校教諭・カウンセラー）	第1～15回すべて
共通	小学校専門生活A	2	國仲 寛人 他	実務家（高等学校数学教諭）	第14回
	小学校専門生活B	2	松本 金矢 他	実務家（高等学校数学教諭）	第2回
	小学校専門生活C	2	宮岡 邦任 他	実務家（小学校教諭・高等学校数学教諭）	第3、9～11回
	小学校専門生活D	2	平島 円 他	実務家（小学校教諭・高等学校数学教諭）	第5、10、11回
	生活教材研究A	2	永田 成文 他	実務家（小学校教諭・高校工業非常勤講師） 実務家活用（小学校教諭）	第10～12回
	生活教材研究B	2	磯部 由香 他	実務家（小学校教諭・高校工業非常勤講師） 実務家活用（小学校教諭）	第10～12回
	生活教材研究C	2	荻原 彰 他	実務家（小学校教諭・高校工業非常勤講師） 実務家活用（小学校教諭）	第10～12回
	生活教材研究D	2	中西 康雅 他	実務家（小学校教諭・高校工業非常勤講師） 実務家活用（小学校教諭）	第10～12回
	総合的な学習の時間の展望と実践	2	中西 康雅 他	実務家（小学校教諭・高校工業非常勤講師） 実務家活用（小学校教諭・中学校教諭）	第11～15回

実務経験のある教員による授業科目一覧

開設部局名： 医学部

教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	医学部	医学科	臨床実習	62	平山 雅浩	医学部附属病院や、三重県内の関係教育病院・診療所等で臨床医として勤務している。	4年生の1月から6年生の8月まで、計70週行っている。(70週以外に4年生の7～8月に見学型臨床実習を2週実施)4年生1月～5年生3月までは、クリニカルクラークシップ(必修)として、1班4～5名(診療科の規模に応じ2班単位)でほとんどの診療科を一通り1～4週間ずつ行う。その後、6年生の4月～8月までエレクトیف実習(選択)として各学生が選択した診療科(海外大学等での実習を含む)を実習する。
専門	医学部	看護学科	基礎看護学実習Ⅰ	1	福録恵子 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	三重大学医学部附属病院の外来部門における見学実習(フィールドワーク)と、病棟部門における基礎的な看護実践(看護援助)を行う。
専門	医学部	看護学科	基礎看護学実習Ⅱ	2	林智子 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	入院という特殊な生活状況下にある対象に対して、看護過程の思考プロセスをたどりながら看護問題を抽出し、それを解決するための日常生活援助を対象の個別性に応じた形で提供する中で、看護実践過程の基礎を学ぶ。また、信頼される医療者としての知識・技術・態度を学ぶ。
専門	医学部	看護学科	成人看護学実習Ⅰ	2	辻川真弓 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	成人期の特性を理解した上で、臨地実習の場において、健康上の問題を持つ対象への関心を深め、アセスメント力、コミュニケーション力を培う。また様々な治療場面見学を通して治療が患者の生活に与える影響を多面的に理解する。
専門	医学部	看護学科	成人看護学実習Ⅱ	4	辻川真弓 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	成人期の特性を理解した上で、健康上の問題を持つ対象の健康レベル・状態に応じた看護を臨地実習を通して実践することができる。

教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	医学部	看護学科	精神看護学実習	2	片岡三佳 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	精神看護学の知識・技術を活用して精神科病棟および施設で実習を行い、精神疾患を持つ人の理解および自己理解を深め、精神保健活動を実践する能力を培う。
専門	医学部	看護学科	小児看護学実習	2	村端真由美 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	小児看護学の知識を踏まえて、対象の発達段階・ニーズに応じた看護を実践する能力を養う。望ましい小児の生活環境について理解し、必要な入院環境の調整について学び、小児保健行政の実際と保健医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ。
専門	医学部	看護学科	母性看護学実習	2	大林陽子 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	母性看護の対象の身体・心理・社会的特性を理解し、性と生殖に関する形態・機能・病態、および、母子とその家族への看護ケアを看護過程の展開をとおして学ぶ。
専門	医学部	看護学科	老年看護学実習Ⅰ	2	磯和勅子 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	高齢者の全人的理解を基に、介護老人保健施設で生活する高齢者に看護過程を展開しながら、日常生活の場での看護、安全面に配慮した高齢者の自立支援、QOL向上に向けたケアを実施する。
専門	医学部	看護学科	老年看護学実習Ⅱ	2	磯和勅子 他	病院等で看護師として勤務していた経験がある。	疾病や障害を持ちながら在宅で生活する高齢者（以下在宅高齢者）及び家族の健康状態と生活環境を総合的に捉えた上でケアニーズを把握し、在宅療養を支える社会制度やケアシステムを踏まえて看護を実践できる基礎的能力を養う。

医学科
看護学科

62
19

実務経験のある教員による授業科目一覧

開設部局名：工学研究科

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	機械工学	材料力学及び演習	2.5	稲葉 忠司	錠前・鍵メーカーに勤務し、製品開発・設計を担当した。	錠前のシリンダーや鍵等の機械部品を例にとり、材料の強度や、成形加工に関わる変形など材料力学の重要性について説明。
					吉川 高正	硝子メーカーに勤務し、製造・加工装置の設計及び生産技術開発を担当した。	演習問題内容と具体的な装置設計との相関を明示し、実務に耐える学力の定着を行うとともに、材料力学の重要性について説明。
専門	工学部	機械工学	連続体力学	2	稲葉 忠司	錠前・鍵メーカーに勤務し、製品開発・設計を担当した。	錠前類の強度や変形について、複雑な負荷状態にあることを紹介することで、材料力学の発展内容を説明。
専門	工学部	機械工学	計算機援用工学	2	稲葉 忠司	錠前・鍵メーカーに勤務し、製品開発・設計を担当した。	設計開発に関わる計算機援用の解析を例にとり、エンジニア業務における解析ツールの原理と利用方法について説明。 実務経験に基づく製品開発・設計をもとに、技術者としての基礎的な目的達成手順を伝達。
専門	工学部	機械工学	工業数学Ⅲ	2	辻本 公一	電機メーカーに勤務し、電気機器開発に関する開発・設計を担当した。	各種家電に生じる振動や流動現象を例にとり、これらを制御するための基礎原理としての常微分方程式を説明。
専門	工学部	機械工学	輸送現象論Ⅰ及び演習	2.5	辻本 公一	電機メーカーに勤務し、電気機器開発に関する開発・設計を担当した。	熱交換器をもつ家電等電気製品を例にとり、熱の伝導・伝達・放射に関する伝熱工学の重要性について説明。
専門	工学部	機械工学	輸送現象論Ⅱ	2	辻本 公一	電機メーカーに勤務し、電気機器開発に関する開発・設計を担当した。	家電製品などから発展し、企業が要請される環境・エネルギー問題の例を紹介し、多様な輸送現象について説明。
専門	工学部	機械工学	数値熱流体力学	2	辻本 公一	電機メーカーに勤務し、電気機器開発に関する開発・設計を担当した。	熱交換器に関わる設計を例にとり、熱流体系の計算機援用の解析ツールについて、原理と利用方法について説明。
専門	工学部	機械工学	工業数学Ⅴ	2	野村 由司彦	情報通信企業に勤務し、各種機械システム・検査システムの研究開発を担当した。	センシング機器などの計測データの例に触れ、機械製造や研究開発における確率・統計学の重要性について説明。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	機械工学	機械運動学	2	野村 由司彦	情報通信企業に勤務し、各種機械システム・検査システムの研究開発を担当した。	駆動系機械システムを例にとり、多種多様な機械の動作を実現するための機械部品や機構について説明。
専門	工学部	機械工学	応用量子論	2	小竹 茂夫	通産省工業技術院にて国立試験所で技官として勤務した。	実務で試験・調査対象として扱った多種多様な機械・電気電子材料を例にとり、物性を理解する上で必要となる物性論について説明。
専門	工学部	機械工学	応用電子論	2	小竹 茂夫	通産省工業技術院にて国立試験所で技官として勤務した。	機械設計における材料選択や、材料開発において重要になる量子力学を、実務で扱った多種多様な材料を例にとりて説明。
専門	工学部	機械工学	機械設計製図Ⅰ	1	吉川 高正	硝子メーカーに勤務し、製造・加工装置の設計及び生産技術開発を担当した。	実務で行った製造・加工装置の設計、製図のフローを例示しながら、機械装置の機能設計、強度設計、材料選択、製図の要点について説明。
専門	工学部	機械工学	機能加工システム	2	吉川 高正	硝子メーカーに勤務し、製造・加工装置の設計及び生産技術開発を担当した。	製品加工や硝子製品を例にとり、延性材料や脆性材料の強度設計や成形加工に関わる降伏理論の基礎について説明。
専門	工学部	機械工学	機械工学フレッシュマンゼミナール	1	吉川 高正	硝子メーカーに勤務し、製造・加工装置の設計及び生産技術開発を担当した。	加工装置・技術を例にとり、大学入学時の学生に、エンジニアとしての将来を説明し、ものづくりに関わる学問を修得する動機づけを行う。
専門	工学部	機械工学	機械工学実験及び実習Ⅰ	1	吉川 高正	硝子メーカーに勤務し、製造・加工装置の設計及び生産技術開発を担当した。	素材の生産技術および素材選択における要求品質、保証品質を具体的に例示し、担当テーマとしての素材硬度の重要性と計測方法を説明。
専門	工学部	機械工学	機械工学実験及び実習Ⅱ	1	吉川 高正	硝子メーカーに勤務し、製造・加工装置の設計及び生産技術開発を担当した。	工程装置及び機器の設計の具体例に基づいて、機械構造用材料の基礎となる炭素鋼の重要性と、担当テーマとしての強度試験を説明。
専門	工学部	機械工学	機械工学実験及び実習Ⅲ	1	吉川 高正	硝子メーカーに勤務し、製造・加工装置の設計及び生産技術開発を担当した。	設計の基本スキルとしての製図に関する計算機援用技術と利用ノウハウを、実務経験に基づいて説明し、三次元CADの基礎操作を説明。
					石井 裕 (非常勤)	家電メーカーに勤務し、情報表示機器の設計・開発を担当した。	情報端末の液晶等表示部品の実物を例示しながら、原理を説明し、製造工程、製品開発、設計について解説。
					山本 直樹 (非常勤)	(現職)自動販売機メーカーに在職し、現工場長。	製品の自動販売機の市場や製造ラインを例示し、マーケティング、生産管理・計画、工程管理について具体的に解説。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	機械工学	生産システム工学	2	田中 信弥 (非常勤)	自動販売機メーカーに在職し、製造、品質管理部門を担当している。	自動販売機の製造工程や生産設備について例示するとともに、品質について多角的な視点から説明し、品質管理や自動化の重要性について解説。
					長谷 浩一 (非常勤)	工作機メーカーに在職し、製品設計、生産管理を担当している。	工作機器やツールを例示し、生産技術や設備開発について説明。工学教育における実・演習内容と実際の業務との関連について説明。
専門	工学部	機械工学	自動車工学	2	杉本 洋一 (非常勤)	自動車メーカーに在職し、R&D部門にて技術の先行研究・先行開発の企画管理を担当している。	自動車製品や将来の輸送機械・制御技術を例示し、将来的な市場を見据えた技術研究・開発について解説。
					小林 慎一 (非常勤)	自動車メーカーに在職し、研究所にて輸送機器システムや動力機器の研究開発、企画を担当している。	原動機を例示して、基礎原理を解説するとともに、近未来的な輸送機器・技術の発想を受講者に促し、実際の技術企画の観点から講評。
専門	工学部	機械工学	交通機械	2	竹市 直 (非常勤)	鉄道車両メーカーに勤務し、機械設計から開発までを担当した。	大学初年度の学生を対象に鉄道車両の歴史や要求仕様、製品を例示し、機構や強度、熱、流体などの機械工学の必要性を説明。
					松本 光一郎 (非常勤)	大型船舶メーカーに在職し、研究所にて技術開発・研究を担当している。現研究所長。	大型船舶、海洋構造物を具体的に例示し、関与する力学や非圧縮性流体の重要性と高校までの物理との関連性を解説。
					川辺 真希子 (非常勤)	重工業企業に在職し、航空機械の設計開発を担当している。	さまざまな航空機の構造や機構、制御方法などを例にとり、入門的な流体力学から性能、安全性に関わる機械工学の重要性を概説。
専門	工学部	電気電子工学	情報理論	2	森 香津夫	電機メーカーの研究所に勤務し、通信機器の開発に従事、および、移動通信技術研究開発会社に勤務し、無線通信の要素技術の研究開発に従事	伝送情報の符号化技術などについて、開発経緯などを実務経験で得た内容を紹介
専門	工学部	電気電子工学	情報通信工学	2	森 香津夫	電機メーカーの研究所に勤務し、通信機器の開発に従事、および、移動通信技術研究開発会社に勤務し、無線通信の要素技術の研究開発に従事	伝送情報の変復調技術などについて、開発経緯などを実務経験で得た内容を紹介
専門	工学部	電気電子工学	通信システムとネットワーク	2	森 香津夫	電機メーカーの研究所に勤務し、通信機器の開発に従事、および、移動通信技術研究開発会社に勤務し、無線通信の要素技術の研究開発に従事	伝送情報の交換技術などについて、開発経緯などを実務経験で得た内容を紹介

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	電気電子工学	電気通信法規	1	森 香津夫	電機メーカーの研究所に勤務し、通信機器の開発に従事、および、移動通信技術研究開発会社に勤務し、無線通信の要素技術の研究開発に従事	有線通信システムの法規制などについて実務経験で得た内容を紹介
専門	工学部	電気電子工学	電波法規	1	森 香津夫	電機メーカーの研究所に勤務し、通信機器の開発に従事、および、移動通信技術研究開発会社に勤務し、無線通信の要素技術の研究開発に従事	無線通信システムの法規制などについて実務経験で得た内容を紹介
専門	工学部	電気電子工学	ベクトル解析及び演習	1.5	佐藤 英樹	真空機器・半導体製造装置メーカーに勤務し、半導体プロセス用各種成膜装置とRF/VHF放電プラズマ源の要素技術の研究開発に従事	プラズマの原理やプラズマ源の構造の理解において、ベクトル解析の知識がどのように関わっているかを、開発経緯などを実務経験に基づき紹介
専門	工学部	電気電子工学	電磁気学I及び演習	3	佐藤 英樹	真空機器・半導体製造装置メーカーに勤務し、半導体プロセス用各種成膜装置とRF/VHF放電プラズマ源の要素技術の研究開発に従事	プラズマの利用方法やプラズマ源の構造、静電チャックの仕組みやなどについて、開発経緯などを実務経験で得た内容を紹介
専門	工学部	電気電子工学	電気電子材料	2	佐藤 英樹	真空機器・半導体製造装置メーカーに勤務し、半導体プロセス用各種成膜装置とRF/VHF放電プラズマ源の要素技術の研究開発に従事	磁性薄膜とは何か、どのようなところで利用されているか、どのように形成するかについて、開発経緯などを実務経験に基づき紹介
専門	工学部	電気電子工学	電気電子工学基礎実験	4	佐藤 英樹	真空機器・半導体製造装置メーカーに勤務し、半導体プロセス用各種成膜装置とRF/VHF放電プラズマ源の要素技術の研究開発に従事	実験テーマ「トランジスタの静特性」において、半導体プロセスについて解説を、開発経緯などを含めて実務経験に基づき紹介
専門	工学部	電気電子工学	電気電子工学応用実験	4	佐藤 英樹	真空機器・半導体製造装置メーカーに勤務し、半導体プロセス用各種成膜装置とRF/VHF放電プラズマ源の要素技術の研究開発に従事	実験テーマ「気体の放電特性」において、気体放電について解説し、成膜プロセスにおいて気体放電がどのように関わっているかを、開発経緯などを実務経験に基づき紹介
					川中普晴	医療情報システムを開発する会社に役員として所属し、情報システムやデータ分析、ならびにソフトウェア開発の一連の業務に従事	マイクロコンピュータの仕組みやそれらを使った制御プログラミングの方法について、開発経験で得た内容について紹介
専門	工学部	電気電子工学	電気電子計測実験	1.5	川中普晴	医療情報システムを開発する会社に役員として所属し、情報システムやデータ分析、ならびにソフトウェア開発の一連の業務に従事	生体情報の計測回路を開発する際に必要となる電気電子測定の基礎的な知識・技術について開発経験で得た内容を紹介

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	電気電子工学	量子力学	2	平松 和政	セラミック製造会社の開発部門に勤務し、電子材料の研究開発に従事	半導体や誘電体などの電子材料における物理現象を電子材料の研究開発で得た内容を基に解説
専門	工学部	電気電子工学	半導体工学	2	平松 和政	セラミック製造会社の開発部門に勤務し、電子材料の研究開発に従事	半導体を構成する電子材料に関して、実務経験で得た内容を基に解説
専門	工学部	電気電子工学	電気電子専門英語I	1	重田 隆康	自動車メーカーの国際部門に勤務し、海外関連の業務に従事	電気電子工学に関連する技術英語について、英文読解力と英作文力を実務経験で得た内容を基に教授
専門	工学部	電気電子工学	電気機器設計	2	前田 照彦	電気メーカーに勤務し、産業用電気機器の企画・開発業務に従事	電気機器の基本原理解、設計製図や信頼評価等を、実務経験で得た内容を基に解説
専門	工学部	電気電子工学	電気エネルギー工学II	2	柴田 樹市	電力会社に勤務し、配電技術関連の業務に従事	電力の配電・送電技術について、実務経験で得た内容を基に解説
専門	工学部	電気電子工学	電気法規	1	青山 一郎	電気法令の所管省庁に勤務し、電気関連法令行政業務に従事	電気関連法令とそれに基づく技術基準について、実務経験で得た内容を基に教授
専門	工学部	電気電子工学	電気電子工学特別講義I	1	大和 昌一	電気メーカーに勤務し、水力発電関連業務に従事	水力発電システムについて、実務経験で得た内容を基に解説
専門	工学部	電気電子工学	電気電子工学特別講義II	1	小川 章	産業用機器メーカーに勤務し、産業用ロボットの研究開発および製造業務に従事	産業用ロボットを構成する技術について、実務経験で得た内容を基に解説
専門	工学部	分子素材工学	高分子合成化学	2	久保雅敬	化学メーカーの技術課に勤務し、化成品の生産技術を担当	リンスインシャンプー、食品包装材料、エンジニアリングプラスチックなどの現在市場に出回っている製品の開発経緯を紹介
専門	工学部	分子素材工学	工業化学概論	2	横森万	化学メーカーの研究所に勤務し、新製品の企画・開発に従事	電材分野・磁気テープを例にし、電気電子産業に貢献する化学企業の研究開発の取り組みを紹介
専門	工学部	分子素材工学	物理化学演習B	1	小塩明	官公庁の研究所に勤務し、量子化学の研究に従事	化学(科学)の諸現象の本質を捉える力を養うための初等量子化学のトレーニングを行う。
専門	工学部	分子素材工学	有機化学B	2	八谷 巖	国外の大学に研究員として勤務し、有機合成の研究に従事	有機化合物の構造と反応性および有機合成の概念を体得し、より高度な有機反応機構および有機天然物合成を学ぶための基礎力を養う。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	分子素材工学	有機合成化学	2	八谷 巖	国外の大学に研究員として勤務し、有機合成の研究に従事	現代の有機化学がどのようなレベルにあり、どのように進化しているか、さらに有機合成化学の目的、発展する方向を学び取る。
専門	工学部	分子素材工学	高分子物性学	2	藤井義久	国外の大学および官公庁の研究所に研究員として勤務し、高分子物性の研究に従事	化学工業を代表する材料の一つである高分子が示す特性を分子論から解説し、「高分子」の性質について理解を深める。
専門	工学部	分子素材工学	反応理論化学	2	三谷昌輝	国内の大学に研究員として勤務し、分子軌道計算の研究に従事	分子軌道の概念および各種分子軌道計算について解説し、分子軌道計算の化学反応への応用の基礎を学ぶ。
専門	工学部	分子素材工学	物理化学B	2	小海文夫	電気機器メーカーの研究所に勤務し、新製品の企画・開発に従事	量子化学の必要性について述べ、この理論の方法を紹介し、実際の原子や分子の諸現象でどのように展開され、活用されるかについて述べる。
専門	工学部	分子素材工学	材料物理化学	2	小海文夫	電気機器メーカーの研究所に勤務し、新製品の企画・開発に従事	レーザーを用いる材料創製の基本的項目から、最新のナノ物質、カーボンナノチューブ形成などへの応用についての解説する。
専門	工学部	分子素材工学	物理化学C	2	八尾浩史	化学メーカーの研究所に勤務し、新製品の企画・開発に従事	様々な分子を構築している化学結合および様々な分子と光との相互作用を利用する分光法の基礎を、量子化学の立場から概説する。
専門	工学部	分子素材工学	有機機能化学	2	北川敏一	国外の大学および官公庁の研究所に研究員として勤務し、有機化学の研究に従事	反応機構が未知の反応の進み方を有機化学、物理化学の知識に基づいて実験的に解明する手法を解説する。
専門	工学部	分子素材工学	無機化学B	2	森大輔	国内の大学および官公庁の研究所に研究員として勤務し、無機材料の研究に従事	典型元素と遷移元素が構成する物質の化学的・物理的性質や応用例を紹介しながら、周期表を横断的に学習する。
専門	工学部	分子素材工学	無機化学演習B	1	田港 聡	国内の大学および官公庁の研究所に研究員として勤務し、無機材料の研究に従事	周期表における各族の特徴を理解し、各元素の特徴や関連性についての知識を得ることで、新規物質の探索などの実際的な応用を可能にする。
専門	工学部	分子素材工学	生物化学B	2	富田昌弘	国内・国外の大学に研究員として勤務し、生物工学の研究に従事	生命現象の基礎を化学の観点から理解を深め、生体物質の特徴および生体機能の精妙さを学ぶ。
専門	工学部	分子素材工学	生物工学	2	富田昌弘	国内・国外の大学に研究員として勤務し、生物工学の研究に従事	遺伝子工学、タンパク質工学、酵素工学および抗体工学に関する内容についてその基礎を習得する。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	分子素材工学	安全教育・工学(化学)倫理	2	三井利幸	官公庁に勤務し、化学に関連する事故原因の調査等に従事	事故発生原因のメカニズム、安全確保のための行動並びに事故防止対策について理解を深め、実社会での事故防止に役立てるようにする。
専門	工学部	分子素材工学	分子素材工学特別講義 I	1	古川博章	化学メーカーの研究所に勤務し、新製品の企画・開発に従事	身の回りに溢れる高分子材料の様々な製品例を示しながら、成形加工法と関連付けて解説する。
専門	工学部	建築学	建築概論	2	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	建築物の構想・設計・建設・利用の各段階にわたる仕事の概要と意義を講ずる。
専門	工学部	建築学	西洋・近代建築史	2	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	1級建築士資格試験の建築史関係の出題例を念頭に置いた講義。
専門	工学部	建築学	建築設計製図I	2	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	建築の立体的空間的把握能力、各部の標準的な寸法、構造体の構成技法、開口部、外構、構造体の構成技法を理解させる。
					加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	建築の立体的空間的把握能力、各部の標準的な寸法、構造体の構成技法、開口部、外構、構造体の構成技法を理解させる。
					大井 隆弘	過去にフリーランスとして複数のリノベーション設計、建築物の3Dグラフィック、その他ペーパーアイテムのデザイン等を手掛けている	比較的単純な設計課題の演習を通し、各部の標準的な寸法規格、空間および立体構成技法、効果的伝達技法を指導している。
専門	工学部	建築学	建築設計製図IV	3	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	各機能の影響・関係を考慮した都市空間・地区空間の在り方や、複合したアクティビティの在り方の構想力を講ずる。
					加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	病院建築の設計を通して、都市空間・地区空間の在り方や、複合したアクティビティの在り方の構想力を講ずる。
					大井 隆弘	過去にフリーランスとして複数のリノベーション設計、建築物の3Dグラフィック、その他ペーパーアイテムのデザイン等を手掛けている	都市内の大規模複合的公共施設の設計演習を通して、各機能の影響関係を考慮した都市空間の在り方や、建築形態・地区空間形態を指導している。
					篠原 佳則	建築設計事務所に勤務し、公共施設などを対象に計画・設計・監理の実務に携わっている。	公共施設の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、求められる施設環境の整備方法を講ずる。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	建築学	建築意匠	1	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	建築設計における形態の構想力の理論的背景をなす建築形態論および建築設計方法論の基礎を、作品実例を挙げつつ概説する。
専門	工学部	建築学	建築構法	2	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	建築設計の実務、とくに実施設計段階における、構造体および仕上げの材料、およびそれらの物的構成法についての基礎的知識を培う。
専門	工学部	建築学	建築英語	1	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	英語圏での建築設計の実務に必要な、建築に関する専門知識や技術に関する専門用語、表現について講ずる。
					加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	英語圏での建築設計の実務に必要な、建築に関する専門知識や技術に関する専門用語、表現について講ずる。
					花里 利一	原子力建屋の耐震設計に関する国際共同研究を担当した。	実務で担当した国際共同研究の動画や資料をテキストとして使用している。
専門	工学部	建築学	建築企画設計	2	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	学生の現代の社会、住環境に対する観察を通して、社会的に成立しうる企画をたてその作品設計を行わせる。
					加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	学生の現代の社会、住環境に対する観察を通して、社会的に成立しうる企画をたてその作品設計を行わせる。
					花里 利一	原子力建屋の耐震設計研究、木造建築物の構造設計、歴史的建造物の構造補強設計等を担当した。	計画・構造・環境の各分野の学習の成果を基礎として、自らが企画を立てて建築作品を設計する。
					大井 隆弘	過去にフリーランスとして複数のリノベーション設計、建築物の3Dグラフィック、その他ペーパーアイテムのデザイン等を手掛けている。	学生自ら企画をたてた建築作品の設計演習について、個別に総合的な指導を行っている。また、効果的なプレゼンテーションについて指導を行っている。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	建築学	建築学実習	1	富岡 義人	建築設計事務所に5年間勤務し、設計補助として4年、有資格者(1級建築士)として1年間設計主任を務めた。	実際の建築物や都市計画の事例あるいは建設現場における建築生産工程等を見学して、実地知識をつける。
					加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	実際の建築物や都市計画の事例あるいは建設現場における建築生産工程等を見学して、実地知識をつける。
					花里 利一	歴史的建造物の構造診断・補強設計に関わる実務を担当した。	地域の風土・歴史に根ざした歴史的建築物等の実地見学型の実習を体験する。
					永井 久也	総合建設業の技術研究所に勤務し、省エネルギー技術の開発および各種の建築に関わる熱的な問題の対策、対応に従事	建築設備に係る建築物の見学に学生を引率すると共に各種省エネルギーシステムの説明を行っている
専門	工学部	建築学	建築計画 I	2	加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	住宅や集合住宅の計画や設計に必要な専門知識や技術に関して、PBL方式の授業を通して学習することを指導する。
					能登 恵里	建築設計事務所に勤務し、総合病院などを対象にBIMを用いた計画・設計・監理の実務に携わっている。	3次元コンピュータ設計システムであるBIMの利用に必要な専門知識や技術に関して、PBL方式の授業を通して学習することを指導する。
専門	工学部	建築学	建築設計製図Ⅱ	2	加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	住宅の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、基本となる居住環境の整備方法を講ずる。
					大井 隆弘	過去にフリーランスとして複数のリノベーション設計、建築物の3Dグラフィック、その他ペーパーアイテムのデザイン等を手掛けている	住宅および小規模公共施設の設計演習を通して、機能的相互関係、立体の適切配列、空間と構造体との関係づけを指導している。
					細井 昭男	建築設計事務所に勤務し、公共施設などを対象に計画・設計・監理の実務に携わっている。	住宅の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、基本となる居住環境の整備方法を講ずる。
					矢永 勝美	建築設計事務所に勤務し、公共施設などを対象に計画・設計・監理の実務に携わっている。	公共施設の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、求められる施設環境の整備方法を講ずる。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	建築学	建築設計製図Ⅲ	3	加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	集合住宅の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、基本となる居住環境の整備方法を講ずる。
					江川 直樹	大学で教鞭をとるとともに建築設計事務所に勤務し、公共施設などを対象に計画・設計・監理の実務に携わっている。	集合住宅の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、基本となる居住環境の整備方法を講ずる。
					高橋 政志	建築設計事務所を主宰し、公共施設などを対象に計画・設計・監理の実務に携わっている。	公共施設の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、求められる施設環境の整備方法を講ずる。
					長谷川 寛	建設会社の設計部に勤務し、公共施設などを対象に計画・設計・監理の実務に携わっている。	集合住宅の設計を通して、都市や地区の空間の在り方や、基本となる居住環境の整備方法を講ずる。
専門	工学部	建築学	建築家職能論	1	加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	米英における建築家の職能を解説し、1級建築士として果たすべき役割や倫理観を講ずる。
					石川 幸雄	建設会社、三重大学(建築学専攻元教授)に勤務し、建築設備や建築環境分野の設計、研究、教育を担当	建築環境・設備計画の立場からみた建築家、建築技術者の職能について解説
					村田 真	出版社に勤務し、日経アーキテクチュア、リアルエステートなどの著名な建築専門誌の取材、編集業務を担当	建築ジャーナリストからみた建築家、建築技術者の職能について解説
専門	工学部	建築学	ファシリティマネジメント	2	加藤 彰一	建築設計事務所に6年間勤務し、設計補助として3年、有資格者(1級建築士)として3年間設計主任を務めた。登録建築家、専攻建築士、APECアーキテクト、ファシリティマネジャーなどの資格を持つ。	都市活動に用いられる施設の計画・設計・運営に必要な専門知識や技術に関して、PBL方式の授業を通して学習することを指導する。
専門	工学部	建築学	建築力学Ⅰ	2	花里 利一	構造設計に関わる解析を実務で担当した。原子力建屋の耐震設計研究を担当した。	建築力学Ⅰは、力学の基本的な内容を学ぶ。実務は、その基礎に立脚する応用である。基礎がなければ、応用はない。
専門	工学部	建築学	構造材料実験法	2	花里 利一	構造材料の要素実験を含む歴史的建造物の構造調査を実務で行った。	実際の建築構造材料を用いた実験により、講義で学んだ知識を定着させることを目的とした授業である。
専門	工学部	建築学	建築基礎構造	2	花里 利一	地盤一建物の動的相互作用研究、基礎工事や車両走行による地盤振動予測と建物防振対策を実務で担当した。	地震時の動的相互作用や基礎工事等による環境問題は建物を設計にあたり、基本的に習得すべき知識である。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	建築学	木質構造	2	花里 利一	建築センター評定に関わる伝統木造建築物の構造設計を担当した。歴史的建造物の構造調査および耐震診断・補強設計を担当した。	実務で担当した木造建築物の耐震・耐風設計における構造設計法を講義に活かしている。歴史的建造物の実務経験は木造建築物の保全に関する講義に活かしている。
専門	工学部	建築学	建築防災工学	2	花里 利一	建築振動学に基づく原子力建屋の耐震設計研究、人工的な振動源による振動制御、伝統木造建築の構造設計を担当した。	経験を活かして実務の基礎となる建築振動学を講義している。
専門	工学部	建築学	建築環境工学I	2	永井 久也	総合建設業の技術研究所に勤務し、省エネルギー技術の開発および各種の建築に関わる熱的な問題の対策、対応に従事	建物外皮の貫流熱負荷を算定するには、建築外皮の伝熱過程を理解し、定量的に予測する必要があり、この建築伝熱理論の具体的事例として紹介している
専門	工学部	建築学	建築環境工学II	2	永井 久也	総合建設業の技術研究所に勤務し、省エネルギー技術の開発および各種の建築に関わる熱的な問題の対策、対応に従事	建築壁体表面およびその内部の結露発生の有無を検討するにあたっては、その現象を定量的に予測する必要があり、この防露設計の具体例として紹介している。
専門	工学部	建築学	建築図学	2	大井 隆弘	過去にフリーランスとして複数のリノベーション設計、建築物の3Dグラフィック、その他ペーパーアイテムのデザイン等を手掛けている	各種投影図法の解説と建築図面制作の演習とを密接に結び付けた講義を実施している。
専門	工学部	建築学	特別講義	1	柳井 崇	建築設計会社に勤務し、環境設備部門の実務に携わっている。	建築環境・設備の最先端の技術やトレンドを紹介し、解説する。
専門	工学部	建築学	建築行政	2	近藤 貴志	三重県県土整備部の建築審査監として、建築確認や建築審査等の建築行政を担当	建築行政を担当している立場から、建築関連法規について解説
専門	工学部	建築学	緑地環境学	2	高田 裕市	建設コンサルタント会社に勤務し、地歩公共団体の都市計画や景観計画の調査・策定業務を担当	景観法にもとづいて地方公共団体が策定する景観計画の内容(必須事項・定めることが望ましい事項・選択事項)、実例などを解説
専門	工学部	建築学	造形実習 I	1	杉井 和彦	アトリエを主宰し、墨や岩絵具など日本古来の素材を使用した絵画作品などの創作に携わっている。	建築設計の基礎となる、色彩の基本効果である明度・彩度・色相表現を解説し、感覚や思考を具体的な色や形で表現する能力を身につけるよう指導する。
専門	工学部	建築学	造形実習 II	1.5	古川 清	アトリエを主宰し、立体造形作品などの創作に携わっている。	建築設計の基礎となる、3次元の空間を構成している形態の基本要素である線・面・立体をベースにおき、立体造形の制作を通して形や空間を研究することを指導する。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	建築学	建築設備Ⅱ	2	岩本 剛	総合設備会社に勤務し、給排水衛生設備・空気調和設備の設計業務に従事	給排水衛生設備の概要と給排水衛生設備の設計・施工業務について解説
					三辻 重賢	総合設備会社に勤務し、電気設備の設計業務に従事	建築電気設備の概要と電気設備設計・施工業務について解説
専門	工学部	建築学	建築設備設計法	2	岸本 雅彦	音響コンサルタント会社に勤務し、建築音響設計業務に従事	建築に関連する音と振動の調査とそのコンサルティングの現状についての事例を紹介
					金子 研	総合建設会社に勤務し、建築設備設計業務に従事	建築空調設備の設計について設計事例を交えて解説
					平井 康之	建築設備会社に勤務し、建築設備設計業務に従事	建築空調設備の設計について設計事例を交えて解説
					大塚 淳	建築設計事務所に勤務し、建築設備設計業務に従事	建築空調設備の設計について設計事例を交えて解説
専門	工学部	建築学	建築生産Ⅰ	2	富田 彰則	ゼネコンに勤務し、建築施工管理業務に従事	建設業経営の生い立ちと変遷、施工の役割、発注・請負方法、安全衛生管理、準備工事から基礎地業工事及び仮設・揚重計画について解説
専門	工学部	建築学	建築生産Ⅱ	2	小林 秀実	ゼネコンに勤務し、建築施工管理業務に従事	建築生産計画の基本事項と、建築生産の最新の方法について解説を行っている。
専門	工学部	建築学	建築生産Ⅲ	2	伊藤 彰浩	ゼネコンに勤務し、建築設備の施工業務に携わっている。	建築生産工程の設備工事について解説を行っている。
					佐々木和彦	ゼネコンに勤務し、建築躯体の工事・施工管理業務に携わっている。	建築生産工程の躯体工事について解説を行っている。
					赤崎 盛久	住宅メーカーに勤務し、プレファブ建築施工に携わった経験をもち、現在は自ら建築設計事務所を経営し住宅設計の実務に携わっている。	住宅建築のプレファブ施工等について解説を行っている。
専門	工学部	建築学	建築構造設計演習	1	前野 将輝	自ら建築設計事務所を経営し、主として建築構造設計の実務に携わっている。	実務を踏まえた建築物の構造設計の演習について指導と解説を行う。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	情報工学	情報通信工学	2	成瀬 央	電気通信企業の研究所に勤務し光通信関連技術の研究開発に従事するとともに、本社において通信システムの研究開発の牽引・導入を担当	情報通信の基礎となっている変調技術、光ファイバ通信・無線通信技術やシステムについて概要を講義している
専門	工学部	情報工学	情報工学特別講義	2	外部有識者	勤務されている企業や研究機関などにおいて従事されている実務	勤務されている企業や研究機関などにおける実務経験に基づいて、製品、技術、サービスなどの研究開発に関連した内容を紹介
専門	工学部	情報工学	人工知能Ⅱ	2	河合敦夫	電気通信企業の研究所に勤務し人工知能(自動翻訳や文書処理技術)の研究開発に従事した。	人工知能の重要な要素である自然言語処理技術について、自動翻訳を例にとり、講義。最近のはやりの翻訳ソフトVoice-Traのレポートも課している。
専門	工学部	情報工学	情報理論	2	成枝秀介	自動車部品メーカーの研究所に勤務し、情報通信技術の研究開発に従事。	情報通信技術の根幹である情報理論における、相互情報量や通信路符号化、情報源符号化について講義している。
専門	工学部	情報工学	上級プログラミング演習Ⅱ	1	森本尚之	電力供給制御機器メーカーの研究開発部署に勤務し、機器の実装や評価実験に従事	組み込み機器やIoT機器などの開発に必要なプログラミングの基礎技術について講義している
専門	工学部	情報工学	情報工学応用	2	村阪 浩司	金融機関のシステム部に勤務し、金融システムの開発に従事するとともに、インターネットを使用した金融商品の開発・導入を担当。また、三重県におけるベンチャーキャピタルの審査、起業への支援を担当	インターネットを使用した金融商品、サービスの仕組み、また、インターネットをベースにした、起業を行うための基礎知識を講義している。
専門	工学部	情報工学	コンピュータ・グラフィックス	2	若林 哲史	機械メーカーの電子機器開発部門に勤務し、コンピュータグラフィックスを高速に表示する装置の開発を担当	3次元CGにおける、モデリング技術、座標変換や隠面消去、陰影付けなどのレンダリング技術について講義している。
専門	工学部	物理工学	電子回路工学基礎	2	小林 正	電気機器メーカーの開発部に勤務し、光磁気ディスクの開発・商品化に従事した。また、特許関連の業務にも従事した。	企業における開発物語を紹介し、その方法論について説明する。
専門	工学部	物理工学	ナノ計測学	2	伊藤 智徳	情報通信関連企業の研究所に勤務、入社後7年目まで半導体デバイス用結晶成長および結晶評価に従事	材料開発において一般的に用いられる、X線回折、電子顕微鏡等、各種ナノメートルスケールでの計測技術を紹介
専門	工学部	物理工学	材料科学	2	伊藤 智徳	情報通信関連企業の研究所に勤務、入社後8年目以降、半導体デバイス材料を中心とした計算機支援材料設計に従事	機械工学、電子工学分野において、物質を材料とし、産業技術へ展開するための不純物、合金の役割を中心に紹介
専門	工学部	物理工学	機械設計基礎及び製図演習	3	永住 和寛	自動車部品メーカーの開発部に勤務し、新製品の企画・開発に従事。	シミュレーションソフトを使用し、ボルトの強度解析を行う。

教養・専門	学部	学・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
専門	工学部	物理工学	機電工学実験II	2	永住 和寛	自動車部品メーカーの開発部に勤務し、新製品の企画・開発に従事。	実験9では機械要素を実測し、手描きでポンチ絵を作成。実験10では3次元CADを使用しポンチ絵を立体化させた後、2次元図面を作成する。
					成田 憲一	電子回路開発	電子回路技術
専門	工学部	物理工学	特別講義I	2	加藤 弘康	電気機器メーカーに勤務し、フラッシュメモリの開発・生産に従事している。	フラッシュメモリの用途、原理、構造、生産、将来展望などを紹介
					栗田 正哉	電気機器メーカーに勤務し、自動販売機の開発・生産に従事している。	自動販売機の構造、生産、将来展望などを紹介
					竹田 守	大手電気メーカーにて液晶ディスプレイ開発、Li二次電池開発、LED照明開発を担当。さらに電子部品開発責任者も歴任	照明器具やディスプレイに関する原理・構造・設計・生産技術などを紹介
					宮崎 健史	電気電子材料開発、金属向き材料開発、ワイヤーハーネス	自動車で使用されているワイヤーハーネスに関する技術紹介
					吉野 睦	プリント配線板の接合信頼性、金属材料開発、CAE	自動車部品の設計開発におけるCAEの利用状況を紹介
専門	工学部	物理工学	機電工学実験I	2	小林 正	電気機器メーカーの開発部に勤務し、光磁気ディスクの開発・商品化に従事した。また、特許関連の業務にも従事した。	電子回路の製作させ、その回路の各部を測定し、回路動作を考察する。

機械工学	36
電気電子工学	36
分子素材工学	31
建築学	60.5
情報工学	13
物理工学	15
計	191.5

実務経験のある教員による授業科目一覧

開設部局名: 生物資源学部

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
1	専門	生物資源学部	学部共通	Science English I	2	高橋 ゆり	平成7年10月1日～平成8年9月30日 ウォルトディズニーワールド 平成8年12月1日～平成11年12月31日 株式会社ジオス/株式会社イーオン 平成12年1月1日～平成14年10月30日 株式会社御木本真珠島 平成14年11月1日～平成16年1月31日 KTC外語学院ベッピーキッズクラブ 平成16年2月1日～平成20年8月31日 有限会社L.A.タイムズ	いろいろな教材等を使った5技能(リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング、グラマー)の強化・生物資源に関連するテーマについての英語によるディスカッション・英語でのプレゼンテーションによって、学生が「科目」として学習してきた英語を応用し「ツール」として使える英語にし、国際学会等で発表・質疑応答ができる力さらに留学に必要な語学力を習得することを目的とする。
2	専門	生物資源学部	学部共通	Science English II	2	高橋 ゆり	平成7年10月1日～平成8年9月30日 ウォルトディズニーワールド 平成8年12月1日～平成11年12月31日 株式会社ジオス/株式会社イーオン 平成12年1月1日～平成14年10月30日 株式会社御木本真珠島 平成14年11月1日～平成16年1月31日 有限会社L.A.タイムズ	いろいろな教材等を使った5技能(リスニング、スピーキング、ライティング、リーディング、グラマー)の強化・生物資源に関連するテーマについての英語によるディスカッション・英語でのプレゼンテーションによって、学生が「科目」として学習してきた英語を応用し「ツール」として使える英語にし、国際学会等で発表・質疑応答ができる力さらに留学に必要な語学力を習得することを目的とする。
3	専門	生物資源学部	学部共通	技術者倫理	2	久下 善生	昭和54年4月1日～平成3年3月31日 株式会社東京久栄 平成3年4月1日～平成10年12月31日 株式会社水土舎 平成11年1月1日～平成19年3月31日 太平洋エンジニアリング株式会社 平成19年4月1日～平成29年3月31日 株式会社東光コンサルタンツ 平成29年5月26日～現在 久下技術士事務所	社会的諸関係の中で、科学技術あるいは科学技術者の倫理を巡ってどのような問題が生じているのか、いくつかの事例を題材にして明らかにし、さらに自らが科学技術者として倫理上の問題に直面したときにどのように対処すべきかについて様々な角度から検証し、どこに人間の目標を置くかを考える。
4	専門	生物資源学部	資源循環学科	植物病理学	2	中島 千晴	独立行政法人製品評価技術基盤機構(研究職員)	植物病理学は農学のなかで重要な一角を占める学問である。これは植物の病害により農作物の15%が失われており、病害の防除は欠かすことが出来ないことが挙げられるであろう。また微生物と植物の相互作用という生命科学的な学問分野と捉えることも可能である。本講義では病害発生仕組み、病原生物の性状、病害の発生生態、防除方法の基礎を講義する。
5	専門	生物資源学部	資源循環学科	食用作物学	2	長屋 祐一	エム・シー・エス 株式会社(非常勤技術アドバイザー)	食用作物は人間のいわゆる主食、またはこれに準ずる食糧の生産を目的として栽培される作物である。本講義ではイネ、ムギ、ダイズ、サツマイモ、ジャガイモについて量的ならびに質的向上と環境保全を前提とした栽培の基礎的理論を整理し、体系的に説明する。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
6	専門	生物資源学部	資源循環学科	樹木生理化学	2	野中 寛	(財)地球環境産業技術研究機構(研究員)	地球上で最も豊富なバイオマス資源である樹木の基本的な代謝生理を説明し、樹木を構成する主要三成分(セルロース、ヘミセルロース、リグニン)がCO ₂ からどのように生合成されていくのか、光合成のメカニズム、主要代謝経路、二次代謝経路について解説する。
7	専門	生物資源学部	資源循環学科	森林化学実験	1	野中 寛	(財)地球環境産業技術研究機構(研究員)	木材や穀物茎などの化学的研究に必要な基礎的分析技術を習得させるために、一般無機分析及び木材分析に関する実験実習を行う。
8	専門	生物資源学部	資源循環学科	森林化学	2	野中 寛	(財)地球環境産業技術研究機構(研究員)	森林資源は、地球上で最大量のバイオマスを誇る再生可能資源である。森林から切りだされる木材は、主に建材、板材、パルプとして使われており、バイオマス資源として燃料や素材原料としても期待されている。本講義では、木材の化学的組成、各成分の性質、木材のパルプ化、木材の生分解、木材保護化学、木材のバイオマス利用など、木材に関する化学的トピックをおよそ網羅しながら概説する。
9	専門	生物資源学部	資源循環学科	植物成分化学実験	1	野中 寛	(財)地球環境産業技術研究機構(研究員)	木材を構成する繊維やリグニンを分離するための原理、各種技術を実験を通して指導する。
10	専門	生物資源学部	資源循環学科	植物材料化学	2	野中 寛	(財)地球環境産業技術研究機構(研究員)	現社会の化石資源への依存、植物資源のエネルギー原料、分子素材原料としてのポテンシャルを学習する。さらに植物資源を構成する分子素材の各種分離プロセス、植物資源による化石資源代替について学習する。
11	専門	生物資源学部	資源循環学科	木質材料学	2	中井 毅尚	農林水産省森林総合研究所(科学技術振興事業団特別研究員)、王子製紙株式会社森林資源研究所(科学技術振興事業団研究員)	木材の微視的・巨視的組織構造や、木材の欠点、針葉樹および広葉樹の識別などについて論じる。 また、木材の物理的特性や化学成分とその利用についても論じる。 さらに、木質材料の分類や接着剤などについても論じる。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
12	専門	生物資源学部	資源循環学科	木質資源工学	2	中井 毅尚	農林水産省森林総合研究所(科学技術振興事業団特別研究員), 王子製紙株式会社森林資源研究所(科学技術振興事業団研究員)	木材を有効に利用するための基本的な加工プロセスを解説するとともに、木材を住宅等の環境形成材料として用いたときの物理的・化学的諸性質について講述する。
13	専門	生物資源学部	資源循環学科	植物生態生理学	2	関谷 信人	国際協力事業団(青年海外協力隊(食用作物, ザンビア派遣)), 国際協力機構(青年海外協力隊(食用作物/稲作, 短期タンザニア派遣), 技術協力専門家(陸稲栽培/研究, タンザニア派遣))	本講義では, 作物生育に与える環境要因の影響について学ぶ。参加者自身が環境制御下で実際に作物を栽培し, 教科書を参考にして, 作物生育に影響を与えた環境要因について考察する。
14	専門	生物資源学部	資源循環学科	資源植物学	2	関谷 信人	国際協力事業団(青年海外協力隊(食用作物, ザンビア派遣)), 国際協力機構(青年海外協力隊(食用作物/稲作, 短期タンザニア派遣), 技術協力専門家(陸稲栽培/研究, タンザニア派遣))	本講義では, 作物収量が遺伝的ポテンシャルと環境要因の相互作用で決定することを学ぶ。参加者自身が実際に作物を栽培し, 教科書を参考にして, 作物生育および収量に影響を与えた環境要因について考察する。また, 英語の教科書を使用する。
15	専門	生物資源学部	資源循環学科	フードシステム論	2	常 清秀	日本学術振興会(特別研究員)	フードシステムの基本的枠組み, 変化およびそのあり方についてシステム的および経済学的な視点から解説する
16	専門	生物資源学部	資源循環学科	水産経済学	2	常 清秀	日本学術振興会(特別研究員)	海洋資源の適正管理、生産・流通のあり方などを法制度及び経済学の視点から学ぶ。
17	専門	生物資源学部	資源循環学科	農作物生育制御概論	2	奥田 均	果樹研究所カンキツ研究部栽培生理研究室(研究, 室長)	イネ、ムギ、ダイズ、野菜、果樹などの栽培、安全な農産物生産、農産物の流通について農業現場での実際に即して初歩から講義する。理解の程度を測るためにレポートをまとめさせる。資料配布、レポート提出などはMoodleを通じて実施する。
						長菅 輝義	独立行政法人農業生物資源研究所(特別研究員)	イネ、ムギ、ダイズ、野菜、果樹などの栽培、安全な農産物生産、農産物の流通について農業現場での実際に即して初歩から講義する。理解の程度を測るためにレポートをまとめさせる。資料配布、レポート提出などはMoodleを通じて実施する。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
18	専門	生物資源学部	資源循環学科	森林政策学	2	山本 伸幸	平成4年4月1日～平成8年4月30日 農林水産省森林総合研究所林業経営部研究員 平成16年3月31日～平成20年11月30日 (独)森林総合研究所 林業経営・政策研究領域主任研究員 平成20年12月1日～平成26年9月30日 (独)森林総合研究所関西支所 地域林業経済担当チーム長 平成26年10月1日～ (独)森林総合研究所林業動向解析研究室長	行政や市民活動の現場で、森林・林業の現状を分析し、森林政策を策定あるいは理解するための基礎的な素養を身につけることを目指す。そのために、世界の森林政策の現状を学習し、日本についても代的林野所有の形成過程や補助金林政の展開過程を中心に近現代の歴史について現状までの過程を整理する。最後に、森林政策、木材商業、森林法律の概要について学習し、今後の森林政策の可能性を探る。
19	専門	生物資源学部	資源循環学科	簿記会計演習Ⅰ	2	平岩 勇一	平成23年2月～現在 ひかり監査法人	生物資源を利用する事業者の経営実態を把握・評価するために不可欠な簿記記帳と財務分析の具体的手法の解説・演習を行う。
20	専門	生物資源学部	資源循環学科	簿記会計演習Ⅱ	2	平岩 勇一	平成23年2月～現在 ひかり監査法人	生物資源を利用する事業者の経営実態を把握・評価するために不可欠な簿記記帳と財務分析の具体的手法の解説・演習を行う。
21	専門	生物資源学部	資源循環学科	地域計画学	2	近江 哲也	平成10年4月～平成11年12月 株式会社セラム 平成10年10月～平成11年12月 サハル株式会社 平成12年1月 株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所 平成17年9月 株式会社大洋テクノロジー 平成18年6月 三菱地所株式会社 平成19年6月 一般財団法人丸有環境共生型まちづくり推進協会 平成27年11月 合同会社 共有価値計画(Shared Value Planning)	地域計画の実践的なプランナーである講師による講義と演習を組み合わせた授業。「地域の持続可能性設計」という視点から、「環境」や「まちづくり」とそのマネジメント手法について扱い、人的資源を含む広義の地域資源への理解を深め、競争力ある地域産業起しの計画に際し、学問と実践の橋渡しとなる企画力を養う。
22	専門	生物資源学部	共生環境学科	土壌圏物質移動論	2	取出 伸夫	日本学術振興会(特別研究員)、アメリカ農務省 U.S.Salinity Laboratory(研究員)	土中の水分・溶質移動について、汎用プログラム HYDRUSを用いてシミュレーションを行い、不飽和土中の物質移動の理解を深める。また、課題を発表することにより、プレゼンテーションの技術を身につける。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
23	専門	生物資源学部	共生環境学科	物質循環解析学	2	取出 伸夫	日本学術振興会(特別研究員), アメリカ農務省 U.S.Salinity Laboratory(研究員)	生態系における物質循環を考える際に基本となる拡散方程式について物理的な意味を学ぶ。その上で、ExcelのVBAを用いた数値計算プログラムを作成し、拡散方程式、境界条件について物理的な考察を行う。
24	専門	生物資源学部	共生環境学科	かんがい排水学	2	加治佐隆光	日本学術振興会(奨励研究員)	河川を中心に、最大利水者である農業部門(水田灌漑、畑地灌漑)の用水量算定方法などについて講義する。また、水利施設と水管理組織についての基礎についても講義する。
25	専門	生物資源学部	共生環境学科	応用水文学	2	加治佐隆光	日本学術振興会(奨励研究員)	合理式を中心に説明している。すなわち、洪水時にどの程度の確率で、どの程度の降雨が発生し、どのように河川に水が集まってくるのか、そういったことをイメージしながら授業を進める。その結果によって、川が水位が堤防よりも高くなり、水があふれてくるのかどうかの評価でできるようになる。降雨が関わるので確率についての知識も必要になる。
26	専門	生物資源学部	共生環境学科	基礎水理学	2	加治佐隆光	日本学術振興会(奨励研究員)	公共的な管水路(水道)や開水路(河川)は世界中のどこにでもあります。すなわち、水理学(Hydraulics)を学ぶ学生は世界中にいます。そこでの基礎的なレベルを想定して、授業計画を組み立てました。具体的には、実際的な水流の基本特性および流れの様相を解析する手順・方法について説明します。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
27	専門	生物資源学部	共生環境学科	測量学演習	2	成岡 市	ソフテックス株式会社(軟X線発生装置製造販売)	測量はあらゆる土木・建築分野で必要とされる技術であり、従来においては要求精度を満たすように如何に観測するか、観測方法・手法に重点が置かれていた。しかし、現在においては測量器械の発達が目覚しく、比較的容易に高精度の観測結果をデジタルデータとして得ることが出来るようになり、必要とされる技術が「観測方法」から「デジタルデータの高度利用」に移行している。また、近年、デジタル化された測量成果を地理空間情報として利活用する重要性が高まっている。本実習では、前期で習得した基礎的測量技術をもとに、トータルステーション、電子平板及びフリーソフトを使用して実務レベルでの測量作業に近い内容で観測と計算を行うことで、デジタル化された測量技術の基礎習得を図る。また、数回にわたりワンポイント測量として、地理空間情報、レーザ計測データ、UAVの活用についての講義を行う。実習においては、各自ノートパソコンを使用する。また、使用するフリーソフトは、測量計算(GioLine)、2D地形図作成(Jw_CAD)を予定しており、講義で配布する。
28	専門	生物資源学部	共生環境学科	測量学演習	2	谷口 光廣	平成3年4月～平成6年2月 中央コンサルタンツ株式会社 平成9年6月～現在 (株)若鈴	習得した基礎的測量技術をもとに、トータルステーション、電子平板及びフリーソフトを使用して実務レベルでの測量作業に近い内容で観測と計算を行うことで、デジタル化された測量技術の基礎習得を図る。また、数回にわたりワンポイント測量として、地理空間情報、レーザ計測データ、UAVの活用についての講義を行う。
29	専門	生物資源学部	共生環境学科	農業農村工学キャリアアップ演習	2	成岡 市	ソフテックス株式会社(軟X線発生装置製造販売)	当科目は「実践農業農村工学」の応用編として位置づけている。地域環境デザイン学教育コースの農業土木学プログラムにおいて必要な農業土木系技術の実践的内容を材料として授業を行う。農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを解説する。これらの話題をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行う。
30	専門	生物資源学部	共生環境学科	農地工学	2	成岡 市	ソフテックス株式会社(軟X線発生装置製造販売)	我が国の農業農村における諸問題と、その対策としての土地利用計画、農業土木事業、土地改良事業、農業農村整備事業について講義する。農業農村地域で発生した問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを解説する。これらの話題をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出す。「知識の記憶」よりも「問題解決法を考える」ことを重視する。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
						成岡 市	ソフテックス株式会社(軟X線発生装置製造販売)	技術の実践的内容に関する授業を非常勤講師(学外の経験者)により行う。農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。講師陣(非常勤講師)には、国家公務員、地方公務員、コンサルタント、ゼネコン等の国内外で活躍している第一線級の講師が選任されている。公務員や民間企業への就職に関する豊富な情報も得ることができる。
						渡部 和弘	平成5年4月1日～平成19年3月31日 農林水産省 平成19年4月1日～平成21年7月19日 農林水産省大臣官房国際部 平成21年7月20日～平成24年7月19日 アジア開発銀行東南アジア局 平成24年7月20日～平成27年6月15日 農林水産省農村復興局 平成27年6月16日～平成29年7月10日 農林水産省大臣官房国際部 平成29年7月10日～現在 農林水産省東海農政局	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。
						内藤 久仁彦	平成17年6月11日～平成20年3月31日 (独)緑資源機構海外事業部 平成20年4月1日～平成21年3月31日 (独)国際農林水産業研究センター 平成21年4月1日～平成24年3月31日 農林水産省農村復興局 平成24年11月9日～平成28年3月9日 エジプト国「水管理移管強化プロジェクト」 平成28年4月1日～平成29年3月31日 農林水産省中国四国農政局 平成29年4月1日～現在 農林水産省東海農政局	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
						宮林 和男	昭和59年4月～昭和63年3月 海部農地開発事務所 平成19年4月～平成21年3月 農林水産部農地計画課 平成21年4月～平成24年3月 農林水産部農地整備課・農林水産部農地計画課 平成25年4月～平成26年3月 新城設案農林水産事務所 平成26年4月～現在 農林水産部農地計画課	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。
						内藤 美菜子	平成20年4月～平成23年3月 豊田加茂農林水産事務所 平成23年4月～平成25年3月 西三河農林水産事務所 平成25年4月～平成28年3月 農林水産部農地計画課 平成28年4月～現在 西三河農林水産事務所	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。
						佐藤 広尚	平成3年4月～平成4年11月 三菱重工業 平成6年5月～平成9年3月 愛知県土地改良事業団体連合会 平成9年4月～平成11年3月 日本農業集落排水協会 平成26年4月～現在 愛知県土地改良事業団体連合会	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。
						世古 勝	平成4年4月1日～平成7年3月31日 三重県南勢志摩県民局伊勢農林水産事務所 平成13年4月1日～平成16年3月31日 三重県松阪建設部 平成19年4月1日～平成22年3月31日 三重県農水商工部農業基盤室 平成22年4月1日～平成27年3月31日 三重県総務部 平成27年4月1日～現在 三重県農林水産部	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
31	専門	生物資源学部	共生環境学科	実践農業農村工学	2	原 貴子	平成10年4月～平成13年3月 桑名農政部 平成13年4月～平成16年3月 伊賀農林商工部 平成16年4月～平成18年3月 北勢県民局農政商工部 平成18年4月～平成24年3月 四日市農林商工環境事務所 平成24年4月～平成25年3月 津農林水産商工環境事務所 平成25年4月～平成27年3月 四日市農林事務所	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。
						本田 浩和	昭和58年4月1日～現在 三重県土地改良事業団体連合会	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。
						水小田 英俊	昭和59年4月1日～現在 株式会社三祐コンサルタンツ	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。
						小木曾 凡芳	昭和58年4月1日～平成22年7月31日 株式会社 三祐コンサルタンツ 国内事業本 部 平成22年8月1日～現在 株式会社 三祐コンサルタンツ 海外事業本 部	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
						野村 洋人	平成8年4月1日～平成12年3月31日 清水建設株式会社 北陸支店 土木部 平成12年4月1日～平成13年11月31日 清水建設株式会社 本社 土木本部 平成13年12月1日～平成18年7月31日 清水建設株式会社 名古屋支店 土木部 平成18年8月1日～平成22年1月31日 清水建設株式会社 北海道支店 土木部 平成22年2月1日～平成25年10月15日 清水建設株式会社 名古屋支店 土木部 平成25年10月16日～現在 清水建設株式会社 関東支店 土木部	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。
						奥田 康博	平成1年4月1日～現在 若鈴コンサルティング株式会社	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。
						中村 光司	平成2年4月1日～平成4年3月31日 津市職員採用(学芸員) 教育委員会文化課 勤務 平成4年4月1日～平成7年3月31日 三重県埋蔵文化財センター派遣(中勢バイバ ス関連発掘調査従事) 平成7年4月1日～平成14年3月31日 津市教育委員会文化課勤務(文化財担当) 平成14年4月1日～平成17年3月31日 津市教育委員会生涯学習スポーツ課(公民 館事業担当) 平成17年4月1日～平成24年3月31日 津市教育委員会生涯学習課(文化財担当) 平成28年4月1日～平成30年3月31日 津市教育委員会生涯学習課(文化財担当)	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。
						渡邊 正	平成2年4月1日～現在 鹿島建設株式会社	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策が どのような経緯・手法で実施されたかを講義す る。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデ アを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待 する。そのための手段として、「地域の自然環境と 人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しな がら人間活動を発展させていくために必要な知 識・技術や能力を得て生かすためのトレーニング を行うとともに、技術者倫理についての能力を養 う。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
32	専門	生物資源学部	共生環境学科	ビオトープ論	2	成岡 市	ソフテックス株式会社(軟X線発生装置製造販売)	ビオトープの語源はギリシャ語に由来する。 “Bios”は生き物、“Topos”は場所を意味する。つまり、この二つの語から「特定の生物群集の境界のある生息空間」や「動植物の特定された生物群集の境界を有する生息空間」が定義される。本授業では、「生物多様性の縮小原因や影響、ビオトープ保全の意義、生物が多様であることの意義、ビオトープ保全の方法、生息環境の多様性と生物の多様性」などに注目し、生態学の概念、ビオトープの全体像、環境関連法、計画手法、施工手法などについて理解を深める。
33	専門	生物資源学部	共生環境学科	測量学	2	成岡 市	ソフテックス株式会社(軟X線発生装置製造販売)	自然環境を安全に保つために「土地資源情報」は必要かつ重要な情報となる。この授業では、土地資源情報すなわち地形情報を得る技術の一つである地形測量(平面測量)、および得られた情報の解析法、利用法等について学習する。
34	専門	生物資源学部	共生環境学科	生物環境計測工学	2	村上 克介	兵庫県(農業土木、技術吏員)、松下電器産業(株)(嘱託研究員)	江戸時代に和紙を用いた温室が発明され、以降素材の開発にしたがってビニールハウス、ガラス温室などを用いた施設園芸が発達した。人工光源の植物栽培への応用は環境制御型実験施設「ファイトロン」で始まったが、植物の安定生産を目的とする「植物工場」も実用化している。閉鎖系施設では生物環境を計測し最適生産に役立てる。その計測方法について、植物工場関連全般を紹介しながら解説する。
35	専門	生物資源学部	共生環境学科	環境材料・加工学	2	松井 良介	平成16年4月1日～平成17年3月31日 財団法人ひろしま産業復興機構広島県産業科学技術研究所 平成21年4月1日～平成24年2月29日 株式会社ブリヂストン生産技術基礎開発第2部	製品の製造に必要な材料の種類・選定法・特性、材料を加工する各種加工法について、その特徴・原理・設備を広く対象に取り上げて、生態系に優しい加工技術の採用に役立つ視点から解説をする。教科書に書かれている内容に関連し広く応用的に解説する。
36	専門	生物資源学部	共生環境学科	フィールド地質学	2	森 康則	～現在 三重県保健環境研究所 衛生研究課	岩石の生成過程とその分布を知る。これらを基にフィールドにおける地質の見方を理解するとともに自然災害などについて三重県の各種事例をまじえて地質学の立場から学習する。
37	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・生物圏生命化学 学科	微生物遺伝学	2	木村 哲哉	愛知県食品工業技術センター(技師)	微生物遺伝学の基礎について分子レベルで講義し、また、それを発展させた遺伝子工学の手法について講義する。さらに、応用的な側面についても取り入れる。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
38	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・生物圏生命化学 学科	応用酵素化学	2	苅田 修一	大関(株)総合研究所(研究職), 沼津工業高等専門学校(非常勤講師), 鈴鹿工業高等専門学校(非常勤講師)	酵素の様々な利用について、商業レベル、工業レベルで理解することを目的とし、次のことを教授する。酵素の生産について、工業レベルでの生産、抽出、分離について理論を学ぶ。これに基づき、実際にすでに商品化されている例を紹介しながら、食品加工、工業利用、医薬品利用、遺伝子工学試薬利用における酵素の利用方法を学習する。農業教科・微生物利用に該当し、特に(3)微生物の代謝とその利用における酵素の一般的性質、酵素の分類と種類、酵素の利用について学習する。
39	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・生物圏生命化学 学科	水産食品化学	2	柴田 敏行	盛田株式会社(研究, 主任心得)	「水産物の鮮度」と「水産物のおいしさ」を科学するために、水産物に含まれる生体分子について、種類やそれぞれの構造と特性、貯蔵や加工に際して生じる性状変化などを科学的な視点から講義する。水産物と畜肉、魚種間におけるそれらの差違や生体分子の定量分析方法について併せて解説を行う。さらに水産物に特徴的な生理活性物質の構造や機能性に関する知見も紹介する。
40	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・生物圏生命化学 学科	脂質化学	2	伊藤 智広	井村屋製菓株式会社(中央研究所, 研究員)	脂質は、タンパク質や糖質とともに生体活動をするためのエネルギーを作り出す材料の一つであり、その中でもカロリーの高い成分である。また、脂質は生体を構成する最小単位である細胞の細胞膜を構成する上で必要不可欠な物質でもある。したがって、脂質の特徴を理解することは、生命科学の分野だけでなく食品や化学工業の産業面における素材開発の部分で非常に重要である。本講義では、自然界に広く存在する脂質の種類およびその性質について生活に密接する油脂を例に解説し、生体内における脂質の代謝(消化吸収、生合成)や近年増加する脂質異常症の発症要因について講述する。
41	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・生物圏生命化学 学科	食品安全化学	2	亀井 誠	昭和62年4月1日～平成9年3月31日 株式会社ニチレイ商品開発室 平成9年4月1日～平成14年9月30日 株式会社ニチレイ技術開発センター 平成14年10月1日～平成17年4月30日 平成20年5月1日～現在 株式会社ニチレイ品質保証部	食品の安全につながる品質および衛生管理には冷凍冷蔵の理論および技術が重要となる。本講義では冷凍食品業界の動向をモデルに加工食品の原材料から製造技術・管理を中心に実用技術を解説し、食品工場における実際の管理について事例を基に説明する。また、食品の安全について消費者とのコミュニケーションについて解説する。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
42	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・生物圏生命化学 学科	環境化学概論	2	山崎 栄次	平成7年4月1日～現在 三重県工業研究所 食と医薬品研究科	環境科学は、「大気・水・土壌・生物などの自然環境と人間とのかかわりを科学的に探究する学問分野(荒木 峻, 環境科学辞典, 東京化学同人)」といわれ、対象が極めて広い。ここでは、環境汚染と資源循環に焦点をあて、主に化学の視点から大気環境, 水質環境, 土壌環境, 食糧, 放射能, 廃棄・循環などを解説する。
43	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・生物圏生命化学 学科	生物プロセス工学	2	加藤 幸久	昭和53年3月21日～平成24年12月31日 ポッカレモン株式会社 平成25年1月21日～平成26年8月31日 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	食品メーカーの商品開発について講義します。食品メーカーの研究所が企業業績向上のために、どのような研究開発を進めているのか、豊富な事例を元に体系的に講義します。
44	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水族神経科学	2	宮崎 多恵子	放射線医学総合研究所(研究員)	様々な生息環境に適した感覚器をもつ魚類が、水中の光、音や振動、化学物質などの外界の情報をどのように受容し、神経系を通して中枢に伝搬、処理し、行動として発現するかを、各種感覚器の特徴的構造や機能、生態における役割とを関連づけて講義する。
45	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水族発生遺伝学実験	1	宮崎 多恵子	放射線医学総合研究所(研究員)	代表的な水生生物を材料に発生実験、顕微鏡観察、比較解剖、遺伝子実験を行い、水生生物の各分類群の生物学的特徴について発生学と遺伝学の観点から理解を深める。
46	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	底生生物学	2	木村 妙子	日本動植物専門学院(非常勤講師)	この講義では海洋のさまざまな環境における生物群集について、底生動物を中心に紹介する。また、多くの人為的攪乱を受けている海洋の生物多様性の保全について考える。
					2	一色 正	香川県農林水産部水産課(水産(上級), 技師)	沿岸域を中心とした水圏環境の時空間的な特徴と生物生産との関係について基礎的な知識を解説する。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
47	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水圏環境生物学	2	浜口 昌巳	平成2年4月1日～平成2年4月30日 南西海区水産研究所企画連絡室 平成2年5月1日～平成6年3月31日 南西海区水産研究所資源増殖部 平成6年4月1日～平成10年9月30日 同上 主任研究官 平成10年10月1日～平成13年3月31日 瀬戸内海区水産研究所瀬戸内海海洋環境 部主任研究官 平成13年4月1日～平成15年3月31日 独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所瀬戸内海海洋環境 部主任研究官 平成15年4月1日～平成17年4月21日 独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所生産環境部主任研 究官 平成17年4月22日～現在 独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所生産環境部 藻場・干潟環境研究室長	水圏環境の変動や生態系の構造と海洋資源生 物の年級群水準決定機構との関係について、過 去から最新の理論までを紹介し変動する生物資 源を安定的に管理するための資源管理方策や栽 培漁業について講述する。さらに、沿岸域の生物 生産に対する陸域の影響、および海岸の人為的 改変の影響についてもとりあげる。
48	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水族病理学	2	一色 正	香川県農林水産部水産課(水産(上級), 技 師)	増養殖魚介類に発生して大きな被害を引き起こ す各種病害の原因と特徴および魚介類の生体防 御機構について講義するとともに、病害の予防と 治療に有効な対策について増養殖現場における 事例を交えて紹介する。
49	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水族病理学実験	1	一色 正	香川県農林水産部水産課(水産(上級), 技 師)	代表的な魚病微生物(ウイルス, 細菌等)と魚類 を用いて、水族病理学に関する基礎的な実験を 行う。
50	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水産飼餌科学	2	吉松 隆夫	国内中等教育教員, 国際協力事業団青年海 外協力隊(リベリア共和国)(教育職員, 講 師, 教諭等)	地球規模の将来的な食糧問題や環境問題の解 決を考えてみた場合, 海洋などの水圏を利用した 水産増養殖の果たすべき役割は年々大きくなっ てきている。本講義では必修科目の浅海増殖学 での講義内容をさらに掘り下げ, 種苗生産過程に おけるもっとも重要な構成要素である海産ワムシ などの初期餌料生物の培養法と利用法, さらに は健苗育成にとり重要な魚類栄養学的知見につ いて, 三重大学を初めとする日本の研究者のこ れまでの貢献や最新の研究情報を織り交ぜなが ら講義する。
51	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水族発生学	2	古丸 明	農林水産省養殖研究所(遺伝育種部遺伝研 究室研究員)	本講義では発生学と進化学の基本を講義する。 前半ではおもに無脊椎動物を対象に, 配偶子形 成から個体発生に至るまでの過程について解説 する。さらに, 後半で進化学について概説し, 自 然選択説, 分子進化について概説する。

通番	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
52	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水族発生遺伝学実験	1	古丸 明	農林水産省養殖研究所(遺伝育種部遺伝研 究室研究員)	代表的な水生生物を材料に発生実験、顕微鏡観 察、比較解剖、遺伝子実験を行い、水生生物の 各分類群の生物学的特徴について発生学と遺伝 学の観点から理解を深める。
53	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	海事概論	2	前川 陽一	広汽船株式会社	練習船を用いた実習や研究を行っていく上で、船 舶を運航するために必要な基本的な知識(航海 学、運用法、海上気象、法規、海洋観測等)を学 び、理解する。 船舶や海洋に関する基礎知識を広く学習する。
54	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	魚類増殖学	2	淀 太我	科学技術振興事業団／日本学術振興会	魚類の増殖に関する概念や原理に加え、魚類増 殖の歴史的発展過程を含む現状や問題点、魚類 増殖に必要な技術や理論について解説する。
55	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	分子生態学	2	河村 功一	水産総合研究センター養殖研究所(研究員、 主任研究官)	分子生態学の原理、方法、実践、解釈について 具体的事例を交えながら解説する。
56	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	水族発生遺伝学実験	1	河村 功一	水産総合研究センター養殖研究所(研究員、 主任研究官)	代表的な水生生物を材料に発生実験、顕微鏡観 察、比較解剖、遺伝子実験を行い、水生生物の 各分類群の生物学的特徴について発生学と遺伝 学の観点から理解を深める。
57	専門	生物資源学部	生物圏生命科学 科・海洋生物資源 学科	海洋化学	2	一見和彦	平成9年10月1日～平成12年9月30日 科学技術振興事業団・科学技術特別研究員 平成13年4月1日～平成15年3月31日 新エネルギー・産業技術総合開発機構産業 技術養成技術者	本講義では、海洋環境を理解する上で必要な化 学の基礎を学ぶとともに、化学的手法を用いて海 洋における物質循環を解明する。また、地球表面 の約70%を占める海洋で起っている様々な現象 には、現場で生息している生物が深く関与してい る。特に海洋生態系の低次栄養段階における生 物活動を海洋の物理化学環境について、海洋を 動的にとらえて解説する。

計	資源循環学科	共生環境学科	生物圏生命化学科	海洋生物資源学科	学部共通	学部全体
			生物圏生命科学科			
科目数計 (実数)	18	15	7	14	3	57
単位数計 (実数)	34	30	14	26	6	110

実務経験のある教員による授業科目一覧

開設部局名：教養教育院

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
1	教養			PBL社会学（国際・現代）	2	林原 玲洋	一般社団法人 神奈川人権センター 特別研究員 社会学（コミュニケーション論・社会問題論・レトリック論） コミュニケーション齟齬の研究	【1】メディアにおける女性像/男性像について、社会学的な仮説を立てられるようになることメディアにおける女性像/男性像の変化については、大きく分けて2つの仮説を立てることができ。1つは、社会において理想とされる女性像/男性像（社会規範）が変化してからという仮説。いま1つは、送り手の目的（伝えたいメッセージやストーリー展開の都合など）にとっては、そのような描き方が合理的だったからという仮説です。一般に、前者のような立場を「方法論的個人主義」、後者のような立場を「方法論的個人主義」と呼びますが、データにもとづいて後者を棄却し、前者を採択することが、社会学の基本的な視点になります。この授業では、実際に2種類の仮説を検証することを通して、社会学の基本的な視点を習得することを目指します。【2】問い・答え・理由の提示にあたってどのような情報が必要かを整理し、実際に収集できるようになることこの授業で実践する研究の手順は、およそ社会科学的研究であれば、学部・学科の区別を問わず、ある程度共通するものです。つまり、(1)比較（共通点と相違点の記述）を通して問いを立て、(2)その学問分野の基本的な視点にもとづく仮説（主導仮説）を立てたうえで、(3)データを収集・分析して、その仮説と立派しない仮説（対抗仮説）を棄却する、という三段階の手順は、様々な学問分野で繰り返される定跡になっています。この授業では、(1)～(3)の手順にそれぞれ4週間を充てることで、学術研究の基本的な手順を習得することを目指します。【3】研究成果を魅力的にプレゼンテーションできるようになること話の内容にどれほど価値があっても、聴衆の関心を引かなければ聞いてもらうことができません。身近なトピックから説き起して、分かりやすく研究成果を伝えるスキルは、文系/理系の区別を問わず、今後みなさんの大学生活や社会生活にとって必要になってくるでしょう。この授業では、4週間に一回ずつ授業内で発表する機会を設け、互いにその出来を評価（ピアレビュー）することで、魅力的なプレゼンテーションの要点をつかむことを目指します。
2	教養			アントレプレナー論／日本理解特殊講義S	2	武田 秀一	武田経営研究所代表	起業のための基礎知識と方法を起業プランの作成を通して実践的に獲得する。 社会をより良いものにしていくためには、与えられた仕事をただこなすのではなく、今のシステムのどこに問題があるのか気づくアンテナの繊細さ、そしてそれを発見したらどうすれば良いのかの企画力、そしてそれを形にする実践力が個々人に求められる。これは実際に起業をせずに一企業に所属する立場を継続する場合でも求められる姿である。このような一連の意識、知識、実践力を身に付けるのがこの授業の目的である。 起業のための基礎知識を得る・起業のための心構え、姿勢を獲得・自ら課題を発見し解決する企画立案能力の獲得
3	教養			医学医療入門	2	梅本 正和	三重大学医学部小児科学教室 うめもことどもクリニック院長	医学医療に関する科学、倫理、社会的立場からの幅広い総論及び各論について幅広く講義する。 医学医療に関する科学的知識と医学医療の持つ倫理性及び社会的概念と課題を提供する。 医学医療の歴史、倫理、いのちの尊さ、医療情報、医療と家族、医療と看護、緩和ケア、性感染症、在宅医療等に関する知識を持ち、医学医療の倫理性及び社会的課題について考えることができる。
4	教養					金丸 恵子	三重大学医学部産婦人科 金丸産婦人科	医学医療に関する科学、倫理、社会的立場からの幅広い総論及び各論について幅広く講義する。 医学医療に関する科学的知識と医学医療の持つ倫理性及び社会的概念と課題を提供する。 医学医療の歴史、倫理、いのちの尊さ、医療情報、医療と家族、医療と看護、緩和ケア、性感染症、在宅医療等に関する知識を持ち、医学医療の倫理性及び社会的課題について考えることができる。
5	教養					鈴木 中人	(株)ライフクリエイイト研究所代表取締役	医学医療に関する科学、倫理、社会的立場からの幅広い総論及び各論について幅広く講義する。 医学医療に関する科学的知識と医学医療の持つ倫理性及び社会的概念と課題を提供する。 医学医療の歴史、倫理、いのちの尊さ、医療情報、医療と家族、医療と看護、緩和ケア、性感染症、在宅医療等に関する知識を持ち、医学医療の倫理性及び社会的課題について考えることができる。
6	教養					丸山 淳子	三重大学医学部附属病院麻酔科	医学医療に関する科学、倫理、社会的立場からの幅広い総論及び各論について幅広く講義する。 医学医療に関する科学的知識と医学医療の持つ倫理性及び社会的概念と課題を提供する。 医学医療の歴史、倫理、いのちの尊さ、医療情報、医療と家族、医療と看護、緩和ケア、性感染症、在宅医療等に関する知識を持ち、医学医療の倫理性及び社会的課題について考えることができる。
7	教養			異文化理解Ⅱ演習（フランス語）	1	ダメモ ジャン・フランソワ	松阪フランス語教室	フランス人教員との平易な対話を通して会話の力を伸ばすとともに、フランス人の対人関係の在り方、ものの考え方を知る。フランス語の文法と語彙の知識とともに、その実践的応用力も伸ばす。 後期も引き続き異文化理解Ⅱ演習（フランス語）bを履修した場合、理解と修得と暗記が十分であれば、フランス語検定試験3級程度に相当する会話能力が得られます。
8	教養			演劇入門	2	鳴海 康平	第七劇場、代表・演出家。Théâtre de Belleville芸術監督。	数ある芸術文化の中でも、演劇という舞台芸術を取り上げる。講義と並ぶ、本授業のもうひとつの柱に演劇ワークショップがある。完成度の高い芝居をすることよりも、コミュニケーション能力や自己表現力を高めるのが目的である。今後の大学生活、対話の必要な学習、就職活動はもとより、広く社会に出てでも役立つ能力を鍛えることをめざす。演劇を観る習慣のある人生のほうが、ない人生よりも豊かである。演劇の面白さを発見し、劇場へ足を運ぶことが習慣化できればよい。 古今東西の演劇の様式とその特徴を学ぶ。現代における演劇制作の現場について知る。ワークショップに参加することで自己表現力やコミュニケーション能力を高める。実際に劇場に足を運ぶことで、演劇を肌で体感する。 演劇の歴史的・社会的意義を理解する。演劇ワークショップを通じてコミュニケーション力・自己表現力を高める。観劇の習慣を身につけることで、本講義の終了後も、演劇を通して、自分の人生を豊かにする。
9	教養					松浦 茂之	公益財団法人三重県文化振興事業団 文化会館副館長兼事業課長	数ある芸術文化の中でも、演劇という舞台芸術を取り上げる。講義と並ぶ、本授業のもうひとつの柱に演劇ワークショップがある。完成度の高い芝居をすることよりも、コミュニケーション能力や自己表現力を高めるのが目的である。今後の大学生活、対話の必要な学習、就職活動はもとより、広く社会に出てでも役立つ能力を鍛えることをめざす。演劇を観る習慣のある人生のほうが、ない人生よりも豊かである。演劇の面白さを発見し、劇場へ足を運ぶことが習慣化できればよい。 古今東西の演劇の様式とその特徴を学ぶ。現代における演劇制作の現場について知る。ワークショップに参加することで自己表現力やコミュニケーション能力を高める。実際に劇場に足を運ぶことで、演劇を肌で体感する。 演劇の歴史的・社会的意義を理解する。演劇ワークショップを通じてコミュニケーション力・自己表現力を高める。観劇の習慣を身につけることで、本講義の終了後も、演劇を通して、自分の人生を豊かにする。
10	教養					油田 晃	油田劇庫代表 特定非営利活動法人バフォーミングアーツネットワークみえ代表理事	数ある芸術文化の中でも、演劇という舞台芸術を取り上げる。講義と並ぶ、本授業のもうひとつの柱に演劇ワークショップがある。完成度の高い芝居をすることよりも、コミュニケーション能力や自己表現力を高めるのが目的である。今後の大学生活、対話の必要な学習、就職活動はもとより、広く社会に出てでも役立つ能力を鍛えることをめざす。演劇を観る習慣のある人生のほうが、ない人生よりも豊かである。演劇の面白さを発見し、劇場へ足を運ぶことが習慣化できればよい。 古今東西の演劇の様式とその特徴を学ぶ。現代における演劇制作の現場について知る。ワークショップに参加することで自己表現力やコミュニケーション能力を高める。実際に劇場に足を運ぶことで、演劇を肌で体感する。 演劇の歴史的・社会的意義を理解する。演劇ワークショップを通じてコミュニケーション力・自己表現力を高める。観劇の習慣を身につけることで、本講義の終了後も、演劇を通して、自分の人生を豊かにする。
11	教養					吉野 さつき	エイブル・アート・ジャパンプログラムコーディネーター エイブル・アート (Able Art) とは、障害者芸術をとりえ直す運動、ノーマライゼーション運動である。 NPO法人ワークショップデザイナー推進機構代表理事	数ある芸術文化の中でも、演劇という舞台芸術を取り上げる。講義と並ぶ、本授業のもうひとつの柱に演劇ワークショップがある。完成度の高い芝居をすることよりも、コミュニケーション能力や自己表現力を高めるのが目的である。今後の大学生活、対話の必要な学習、就職活動はもとより、広く社会に出てでも役立つ能力を鍛えることをめざす。演劇を観る習慣のある人生のほうが、ない人生よりも豊かである。演劇の面白さを発見し、劇場へ足を運ぶことが習慣化できればよい。 古今東西の演劇の様式とその特徴を学ぶ。現代における演劇制作の現場について知る。ワークショップに参加することで自己表現力やコミュニケーション能力を高める。実際に劇場に足を運ぶことで、演劇を肌で体感する。 演劇の歴史的・社会的意義を理解する。演劇ワークショップを通じてコミュニケーション力・自己表現力を高める。観劇の習慣を身につけることで、本講義の終了後も、演劇を通して、自分の人生を豊かにする。

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
12	教養			音楽文化論	2	三浦 健一	桜丘高等学校音楽科非常勤講師	古代社会から中世、近世へ至る西洋の歴史の流れの中で、人間と音楽がどのように関わり、音楽をどのように捉えてきたかを講義する。 西洋古代から近世にかけて音楽の思想、作曲様式などの展開の過程を理解する。
13	教養			環境科学	2	古川 浩司	財団法人三重県環境保全事業団	近年、世界的な問題となっている環境問題を理解することは重要である。そこで、水質汚染、大気汚染、衛生環境、有害化学物質、土壌汚染、放射能・放射線、エネルギー、廃棄物、地球環境等の環境問題を基礎的、概念的、実践的に講義し、環境問題を身近な問題として捉え、根本的に理解できる能力を育てる。また、環境分析技術の事例についても講義する。 地球規模の問題となっている環境問題に関する知識を知ることにより、環境問題の解決方法について考察し、理解できるようになることを目的とする。 環境科学に関する基礎的な知識を得ることにより、環境問題を系統立てて説明することができ、また身近な環境問題について調査し、解決方法を推論できるようになる。
14	教養					奥山 哲也	オフィスオクヤマ（活動拠点：三重県）	環境先進大学 三重大学として取り組んでいる環境マネジメントシステム（ISO14001）の知識と監査技術の取得をする。最終的に学内資格の認定を受け、実際の三重大学環境内部監査に携わる。 環境内部監査員として三重大学の環境内部監査に携わることが出来る。 三重大学が取り組む環境マネジメントシステムを理解し、環境取り組みを監査する力量を身に付ける。最終目標は学内資格「三重大学環境内部監査員」の認定を受け大学の環境内部監査に貢献する。
15	教養			国際保健と地域医療	2	神谷 元	聖路加国際病院小児科 国立感染症研究所感染症疫学センター第1室主任研究員	医療と公衆衛生の課題を「国際」と「地域」のふたつの視点から考える授業である。地域医療の原点がある低所得国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。授業内容には三重県や地域にかかわる内容が含まれています。 世界の保健医療の現状と課題を理解する。・我が国の地域医療の現状と課題を理解する。・「地域医療と国際保健医療の運動性」、「日本の医療従事者の世界での役割」、「医療の本質」を考える。
16	教養					久留宮 隆	済生会松阪総合病院外科部長 桑名東医療センター手術室部長 愛知厚生連海南病院総合診療代表部長 三重厚生連いなべ総合病院救急総合診療部長 国境なき医師団日本、副会長	医療と公衆衛生の課題を「国際」と「地域」のふたつの視点から考える授業である。地域医療の原点がある低所得国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。授業内容には三重県や地域にかかわる内容が含まれています。 世界の保健医療の現状と課題を理解する。・我が国の地域医療の現状と課題を理解する。・「地域医療と国際保健医療の運動性」、「日本の医療従事者の世界での役割」、「医療の本質」を考える。
17	教養					小泉 圭吾	三重県立総合医療センター 鳥羽市立神島診療所	医療と公衆衛生の課題を「国際」と「地域」のふたつの視点から考える授業である。地域医療の原点がある低所得国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。授業内容には三重県や地域にかかわる内容が含まれています。 世界の保健医療の現状と課題を理解する。・我が国の地域医療の現状と課題を理解する。・「地域医療と国際保健医療の運動性」、「日本の医療従事者の世界での役割」、「医療の本質」を考える。
18	教養					坂倉 建一	自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学1循環器科准教授	医療と公衆衛生の課題を「国際」と「地域」のふたつの視点から考える授業である。地域医療の原点がある低所得国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。授業内容には三重県や地域にかかわる内容が含まれています。 世界の保健医療の現状と課題を理解する。・我が国の地域医療の現状と課題を理解する。・「地域医療と国際保健医療の運動性」、「日本の医療従事者の世界での役割」、「医療の本質」を考える。
19	教養					中村 安秀	東京大学医学部附属病院小児科研修医 東京都母子保健サービスセンター研修相談担当医長 国際協力機構（JICA）長期専門家 国連難民高等弁務官事務所（UNNCR）アフガン難民医療担当官	医療と公衆衛生の課題を「国際」と「地域」のふたつの視点から考える授業である。地域医療の原点がある低所得国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。授業内容には三重県や地域にかかわる内容が含まれています。 世界の保健医療の現状と課題を理解する。・我が国の地域医療の現状と課題を理解する。・「地域医療と国際保健医療の運動性」、「日本の医療従事者の世界での役割」、「医療の本質」を考える。
20	教養			自然科学概論	2	高瀬 幸次郎	厚生連松阪中央総合病院研修医 国立津病院内科内科医（厚生技官） 医療法人主体会川村病院 三重県立総合医療センター 地方独立行政法人三重県立総合医療センター	食品には栄養素としての一次機能、味や香りの二次機能、生体調節機能としての三次機能があり、当然のことながら、私たちの生活の豊かさや心身の健康に極めて重要な役割を担っている。本講義では、「食品の科学」や「食と健康」として、糖質、脂質、タンパク質など食品の主要構成成分の構造と機能や、それらの健康への影響、生活習慣病との関係などについて、これらの基礎研究を行っている第一線の研究者がわかりやすく解説する。また、医療現場の経験者を講師陣に加え、がんや生活習慣病との関係についても解説する。 食品を構成する成分について、分子レベルの基本的な構造や機能、機能性や健康への影響についての知識を得ることを目的とする。また、健康食品などについて批判できる力を養う。
21	教養			生物学	2	福田 知子	企業（営業）、博物館研究員	「生物多様性」とは生物が多様であることを表し、生物多様性の概要を知erことは、生物学の基本である。この授業では、高校までの生物学では断片的にしか語られない「生物多様性」について講義する。具体的には、生物がどのように多様化してきたか、人間が生物をどのように認識し、理解し、整理してきたか、生物を知るためにどのような調査・研究が行われてきたかなどについて俯瞰する。また、生物多様性の保全についても考える。 生物の研究は多くの場合、一種～数種の生物に焦点を当てたり、生物の一部を抽出したりすることで進められるが、生物研究の基本にあるのは生物界であり、それらの生物がつくる多様性である。一方、生物多様性の保全が叫ばれる現代において、生物多様性の概念は、今後すべての社会人の持つべき科学リテラシーとして重要である。この授業では、学部・専攻を問わず、すべての受講生が生物多様性が認識されてきた過程を知り、生物多様性という言葉で表されるさまざまな内容を理解できるようになることを学習目的とする。
22	教養			日本理解特殊講義	2	松月 清郎	ミキモト真珠島・真珠博物館館長（学芸員）	三重県は、2000年の歴史を有する伊勢神宮を中心として、豊かな文化を育み、いまなお、魅力的な地域資源を数多く残す。本授業では、三重県の歴史的事象、文化的特徴、先人の功績、地域資源を活用した観光展開等に注目し、各テーマに精通したゲストスピーカーを迎え、三重県の歴史・文化を学ぶ。具体的には、本郷の一大産地として栄えた伊勢において財を成した伊勢商人や、伊勢の地で世界初の真珠養殖の成功をおさめ海外進出を果たした御木本幸吉などについてその足跡を辿る。また、万葉集にも詠まれているように、三重県は古くから朝廷や伊勢神宮に海の幸を献上する「御食つ国」（みけつくに）の役割を果たしてきた。こうした食文化の成り立ちを学ぶとともに、地域・観光資源としての食や歴史文化等を活用した観光展開、さらには新たな観光のすそ広がりを取り上げる。本講義のねらいは、古代より育まれてきた三重県固有の地域資源が、これまでどのように利用され、豊かな文化を形成してきたかを考察し、今後どのように持続的に利用していくことで三重県の発展に貢献できるのかを考えるための基礎的な視座を得ることである。授業は、各テーマに精通したゲストスピーカーを迎え講義をさせていただくが、より深い学びを得られるよう、事前にグループワークを通じて各テーマについて学習する。

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
23	教養			物理学	2	鬼頭 孝治	国際協力事業団（現：独立行政法人国際協力機構）インドネシア ボゴール農科大学 農業工学、制御工学 ドローンによる獣害対策、熟度判定機能を持つ桃収穫装置の開発	エネルギーは現代人の暮らしに欠かせないが、東日本大震災やそれが基で起きた福島第一原発事故は、エネルギー問題を自身のこととして考えさせる大きなきっかけを与えた。これまでも環境問題やエネルギー資源の枯渇を背景に、新エネルギーの開発が進められていたが、化石エネルギーの代替となる画期的なエネルギーの開発には至っていない。このような状況の中で、本授業は、教科書を用いて進めながら、世間にあられるエネルギーの情報から、その特徴を多面的に見ながら正しく理解していくことを目指す。 現代社会におけるエネルギー問題の解説と議論を通して、技術的な課題、制度的な課題、経済的な課題などを理解し、自身の考えを確立できるようにする。 1) エネルギーを考えるための視点を理解できる。2) エネルギーの発展と歴史と地理について理解できる。3) エネルギー供給源ごとの課題と将来性を理解できる。4) エネルギーの最適な組合せの考え方を理解できる。5) エネルギーの需要、省エネを理解できる。
24	教養			物理学	2	野村 由司彦	日本電信電話公社茨城電気通信研究所線路研究部部長 日本電信電話株式会社伝送システム研究所線路システム研究部主任研究員	スポーツの力学、および機械の力学について、多くの人が「わかった」と思えるように、図も用いて、平易に説明します。ただし、一部は高校で学ぶ基礎的な物理学に基づいて数理的な解析を加えます。 私たちは、モノの世界に生きています。モノには動くモノもあれば静止しているモノもあります。その中で、動物という言葉の意味するように、「動き」は一面において私たちの存在そのものであり、動くモノは格別に興味深いものです。ここで、「物理」は、物の道理を扱う学問ですが、その中で「動き」に関わる分野は「力学」です。もし、これを理解し、応用することができれば、世界はこれまでとは全く異なったものに見えてきます。例えば、筋肉、骨格、感覚など、私たちの身体の構造や動きの仕組みを考えれば、スポーツの面白さも増します。スポーツの技能の上達のノウハウも得られます。 また、私たちは「機械」にも囲まれています。「機械」とは「物体を組合せたものであり、一部が他に対して相対的に所定の運動を行って、有用な仕事をするもの」ともいえます。現代科学技術の粋を集めた機械としては自動車やロボットがあげられます。この機械も「動く」ものですから、「力学」はその根幹をなす学問です。身体に関して述べたと同様に、機械の構造や動きの仕組みを理解することで、自動車やロボットの内部が手に取るように見えてきます。機械が見えてくると、わかってきて、身近に感じられれば、楽しくなります。
25	教養					松月 清郎	ミキモト真珠島・真珠博物館館長（学芸員）	三重県内の産業について、オムニバス形式で講義を行う。三重県の産業の中には、国内ばかりでなく世界的なブランドとして知られている地場産業が数多くある。例えば、ミキモト真珠は世界ではじめて養殖に成功して以来、「ミキモト真珠」という世界的なブランドとして君臨している。また、日本初の本FSC認証を取得した速水林業のヒノキは日本屈指の三重ブランドである。世界的なブランドとして成長できた背景には何が必要であったのか、戦略的に優れたものは何だったのかを探ることは、新たな三重ブランドを創出するために大変重要な意味を持つ。また、四日市公害で苦しんだ経験を生かした「環境に配慮した商品」の開発は産業と環境との両立をはかる、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を先取る、戦略的な三重ブランド創出の大きなチャンスとなる。単に特産品やその概要を学ぶのではなく、世界の動向を踏まえながら地域の特徴を活かした持続可能な地域創生のための基本的知見を知り、戦略的取り組みについて講義を行う。 地域の特徴を活かした持続可能な地域創生を基とする、国連持続可能な開発(SDGs)を先取る地域創生型産業について学ぶ。 三重ブランドを創出するために必要とする諸要件を探り、応用し、発表できる。感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力の向上をはかる。
26	教養					西浦 尚夫	(公財) 三重北勢地域地場産業振興センター	三重県内の産業について、オムニバス形式で講義を行う。三重県の産業の中には、国内ばかりでなく世界的なブランドとして知られている地場産業が数多くある。例えば、ミキモト真珠は世界ではじめて養殖に成功して以来、「ミキモト真珠」という世界的なブランドとして君臨している。また、日本初の本FSC認証を取得した速水林業のヒノキは日本屈指の三重ブランドである。世界的なブランドとして成長できた背景には何が必要であったのか、戦略的に優れたものは何だったのかを探ることは、新たな三重ブランドを創出するために大変重要な意味を持つ。また、四日市公害で苦しんだ経験を生かした「環境に配慮した商品」の開発は産業と環境との両立をはかる、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を先取る、戦略的な三重ブランド創出の大きなチャンスとなる。単に特産品やその概要を学ぶのではなく、世界の動向を踏まえながら地域の特徴を活かした持続可能な地域創生のための基本的知見を知り、戦略的取り組みについて講義を行う。 地域の特徴を活かした持続可能な地域創生を基とする、国連持続可能な開発(SDGs)を先取る地域創生型産業について学ぶ。 三重ブランドを創出するために必要とする諸要件を探り、応用し、発表できる。感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力の向上をはかる。
27	教養					西浦 尚夫	(公財) 三重北勢地域地場産業振興センター	三重県の環境問題、特に四日市公害問題から環境先進県としての過去・現在・未来像を探るため、オムニバス形式で、人文社会科学及び自然科学、医学などを横断的に繋ぐ学際的・総合環境学的アプローチの講義を行う。四日市公害から学ぶ「四日市学」は、命の尊厳を問う人間学・国連持続可能な開発目標(SDGs)・ユネスコ持続可能な開発のための教育(ESD)・新興国として世界で最も経済発展が見込めるアジアにおける持続可能なアジア学を提案することで、環境と人間を含む生態系との持続可能な連携について学ぶ。2015年3月に開館した「四日市公害と環境未来館」との連携によって、四日市公害について総合的に学ぶ。四日市公害の教訓を生かし、過去の負の遺産を未来への正の資産に変えるための知見、価値判断、行動力を育む。 人文社会科学・自然科学・医学など学問横断的アプローチの講義を通して、幅広い視野で地域の捉え方・見方ができ、かつ、世界へ通用できるグローバル・ローカル(グローバル)人材を育成する。 過去の負の遺産としての四日市公害の教訓を活かし、未来への正の資産に変えるため、三重県唯一の総合大学の三重大学が世界一の環境先進大学として位置付けられるための、環境マインドの高く、問題解決力を習得している、グローバル人材となるべく、感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力の向上を図る。
28	教養			三重学	2	先浦 宏紀	株式会社三重銀行 株式会社三十三総研総務部長兼調査部首席研究員	三重県内の産業について、オムニバス形式で講義を行う。三重県の産業の中には、国内ばかりでなく世界的なブランドとして知られている地場産業が数多くある。例えば、ミキモト真珠は世界ではじめて養殖に成功して以来、「ミキモト真珠」という世界的なブランドとして君臨している。また、日本初の本FSC認証を取得した速水林業のヒノキは日本屈指の三重ブランドである。世界的なブランドとして成長できた背景には何が必要であったのか、戦略的に優れたものは何だったのかを探ることは、新たな三重ブランドを創出するために大変重要な意味を持つ。また、四日市公害で苦しんだ経験を生かした「環境に配慮した商品」の開発は産業と環境との両立をはかる、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を先取る、戦略的な三重ブランド創出の大きなチャンスとなる。単に特産品やその概要を学ぶのではなく、世界の動向を踏まえながら地域の特徴を活かした持続可能な地域創生のための基本的知見を知り、戦略的取り組みについて講義を行う。 地域の特徴を活かした持続可能な地域創生を基とする、国連持続可能な開発(SDGs)を先取る地域創生型産業について学ぶ。 三重ブランドを創出するために必要とする諸要件を探り、応用し、発表できる。感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力の向上をはかる。
29	教養					速水 亨	速水林業（経営）	三重県内の産業について、オムニバス形式で講義を行う。三重県の産業の中には、国内ばかりでなく世界的なブランドとして知られている地場産業が数多くある。例えば、ミキモト真珠は世界ではじめて養殖に成功して以来、「ミキモト真珠」という世界的なブランドとして君臨している。また、日本初の本FSC認証を取得した速水林業のヒノキは日本屈指の三重ブランドである。世界的なブランドとして成長できた背景には何が必要であったのか、戦略的に優れたものは何だったのかを探ることは、新たな三重ブランドを創出するために大変重要な意味を持つ。また、四日市公害で苦しんだ経験を生かした「環境に配慮した商品」の開発は産業と環境との両立をはかる、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を先取る、戦略的な三重ブランド創出の大きなチャンスとなる。単に特産品やその概要を学ぶのではなく、世界の動向を踏まえながら地域の特徴を活かした持続可能な地域創生のための基本的知見を知り、戦略的取り組みについて講義を行う。 地域の特徴を活かした持続可能な地域創生を基とする、国連持続可能な開発(SDGs)を先取る地域創生型産業について学ぶ。 三重ブランドを創出するために必要とする諸要件を探り、応用し、発表できる。感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力の向上をはかる。
30	教養					渡邊 昇	岐阜県地球環境課長	三重県内の産業について、オムニバス形式で講義を行う。三重県の産業の中には、国内ばかりでなく世界的なブランドとして知られている地場産業が数多くある。例えば、ミキモト真珠は世界ではじめて養殖に成功して以来、「ミキモト真珠」という世界的なブランドとして君臨している。また、日本初の本FSC認証を取得した速水林業のヒノキは日本屈指の三重ブランドである。世界的なブランドとして成長できた背景には何が必要であったのか、戦略的に優れたものは何だったのかを探ることは、新たな三重ブランドを創出するために大変重要な意味を持つ。また、四日市公害で苦しんだ経験を生かした「環境に配慮した商品」の開発は産業と環境との両立をはかる、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を先取る、戦略的な三重ブランド創出の大きなチャンスとなる。単に特産品やその概要を学ぶのではなく、世界の動向を踏まえながら地域の特徴を活かした持続可能な地域創生のための基本的知見を知り、戦略的取り組みについて講義を行う。 地域の特徴を活かした持続可能な地域創生を基とする、国連持続可能な開発(SDGs)を先取る地域創生型産業について学ぶ。 三重ブランドを創出するために必要とする諸要件を探り、応用し、発表できる。感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力の向上をはかる。
31	教養					坊農 秀治	三重テレビ放送株式会社報道制作部副部長	三重県の環境問題、特に四日市公害問題から環境先進県としての過去・現在・未来像を探るため、オムニバス形式で、人文社会科学及び自然科学、医学などを横断的に繋ぐ学際的・総合環境学的アプローチの講義を行う。四日市公害から学ぶ「四日市学」は、命の尊厳を問う人間学・国連持続可能な開発目標(SDGs)・ユネスコ持続可能な開発のための教育(ESD)・新興国として世界で最も経済発展が見込めるアジアにおける持続可能なアジア学を提案することで、環境と人間を含む生態系との持続可能な連携について学ぶ。2015年3月に開館した「四日市公害と環境未来館」との連携によって、四日市公害について総合的に学ぶ。四日市公害の教訓を生かし、過去の負の遺産を未来への正の資産に変えるための知見、価値判断、行動力を育む。 人文社会科学・自然科学・医学など学問横断的アプローチの講義を通して、幅広い視野で地域の捉え方・見方ができ、かつ、世界へ通用できるグローバル・ローカル(グローバル)人材を育成する。 過去の負の遺産としての四日市公害の教訓を活かし、未来への正の資産に変えるため、三重県唯一の総合大学の三重大学が世界一の環境先進大学として位置付けられるための、環境マインドの高く、問題解決力を習得している、グローバル人材となるべく、感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力の向上を図る。

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
32	教養			異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a	1	バルトロメセバスティアン	ドイツ語教室（市民講座・個人レッスン）	ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文化に対する理解を深めます。ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得して、基礎的なドイツ語会話の能力を身につけます。 ドイツ語圏のさまざまな文化的現象について説明することができます。ドイツ語で簡単な自己紹介を行い、持ち物や家族について会話することができます。
33	教養			異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）b	1	バルトロメセバスティアン	ドイツ語教室（市民講座・個人レッスン）	ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化に対する理解を深めます。ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項を習得し、さらに過去形や現在完了形も学ぶことによって、ドイツ語の基礎的な表現力とリスニング能力を身につけます。 ドイツ語圏のさまざまな社会的現象やその文化的背景について説明することができます。日常的な事柄について、平易なドイツ語で会話することができます。
34	教養			異文化理解Ⅰ演習（ロシア語）a	1	山路 明日本	北海道警察学校非常勤講師（ロシア語）	異文化について理解を深めるための糸口として、ロシアの文化と社会について親しむことを目的とする。初等文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、プリント・音声・映像資料なども用いながらロシア社会の特徴やロシア人の国民性についても学んでいく。 ロシア文化との関わりを端緒として、異文化に対する興味関心を深め、偏見を払拭するとともに他者に対して開かれた精神を獲得し、他者の視点から自文化をみつめる精神を養う。自文化と比較しながら他国の社会文化や異国の国民性を学ぶことを通して、自国の現状や国際関係についてみずから考える視座を獲得する。ロシア語の習得をとおして、異文化間コミュニケーションの能力も鍛える。 ロシア社会の特徴を知り、ロシア人の国民性について理解する。文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。
35	教養			異文化理解Ⅰ演習（ロシア語）b	1	山路 明日本	北海道警察学校非常勤講師（ロシア語）	異文化について理解を深めるための糸口として、ロシアの文化と社会について親しむことを目的とする。初等文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、プリント・音声・映像資料なども用いながらロシア社会の特徴やロシア人の国民性についても学んでいく。 ロシア文化との関わりを端緒として、異文化に対する興味関心を深め、偏見を払拭するとともに他者に対して開かれた精神を獲得し、他者の視点から自文化をみつめる精神を養う。自文化と比較しながら他国の社会文化や異国の国民性を学ぶことを通して、自国の現状や国際関係についてみずから考える視座を獲得する。ロシア語の習得をとおして、異文化間コミュニケーションの能力も鍛える。 ロシア社会の特徴を知り、ロシア人の国民性について理解する。文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。
36	教養			異文化理解Ⅰ基礎（ロシア語）a	1	山路 明日本	北海道警察学校非常勤講師（ロシア語）	異文化理解の観点からみて、英語以外にいくつかの外国語を知ることが大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってもらいたいと思います。ロシア語の発音の基礎を手はじめに、初級文法をすこしずつ学んでいきます。 ロシア語の基礎的な文法を習得したうえで、日常生活でよく使われる文章を理解でき、自らの考えを伝えられるようになることをめざします。 1) ロシア語の文字を正確に発音できる。2) ロシア語の文字を自由に読み書きできる。3) ロシア語で簡単な挨拶、受け答えができる。4) ロシア語初等文法の基礎を理解し、運用できる。
37	教養			異文化理解Ⅰ基礎（ロシア語）b	1	山路 明日本	北海道警察学校非常勤講師（ロシア語）	異文化理解の観点からみて、英語以外にいくつかの外国語を知ることが大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってもらいたいと思います。ロシア語の発音の基礎を手はじめに、初級文法をすこしずつ学んでいきます。 ロシア語の基礎的な文法を習得したうえで、日常生活でよく使われる文章を理解でき、自らの考えを伝えられるようになることをめざします。 1) ロシア語の文字を正確に発音できる。2) ロシア語の文字を自由に読み書きできる。3) ロシア語で簡単な挨拶、受け答えができる。4) ロシア語初等文法の基礎を理解し、運用できる。
38	教養			異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）	1	バルトロメセバスティアン	ドイツ語教室（市民講座・個人レッスン）	日常生活のさまざまな場面にそくして、ドイツ語の簡単な表現ができるようになる。ドイツ語で自己表現ができるようになる。ドイツ語を通してドイツとヨーロッパの文化について知識を得る。 ドイツ語で自己表現し、コミュニケーションをとることができる。
39	教養			異文化理解Ⅱ総合（フランス語）	1	井出 勉	名古屋YMCA学院 非常勤講師（フランス語担当） アリアンス・フランセーズ名古屋 非常勤講師（フランス語担当）	フランス文化との関わりを端緒として、アメリカ文化とは違うヨーロッパ文化という異文化への関心を養い深めてもらう。中級程度のフランス語で書かれた文章の理解を通して、正確な音読を習得し、異文化コミュニケーションに役立ててもらう。 フランス文化を概観することで、現代フランスの現状や歴史的背景及びその問題点について理解する。フランス語に関しては、フランス語検定試験3級・準2級程度の文法力、語彙力、および読解力を習得する。
40	教養			医学医療B	2	楠本 みちる	三重県立こころの医療センター 三重県こころの健康センター	現実 に即した医学知識を学び、心身の健康維持と危機管理能力を習得する。（1）学生生活において身近な精神的問題について学ぶ。特に、自殺、睡眠障害、女性特有のメンタルヘルスの課題について学ぶ。これらの学習を通じて、学生生活における精神の健康について考察できる。（2）薬物やアルコールの依存について精神的な側面から理解を深め、その予防について考察することができる。（3）感染症の定義と感染症が成立するための因子について理解する。結核やインフルエンザなど学校健康法で指定されている感染症や性感染症、渡航時に知っておくべき感染症について正しい知識とその予防法を学ぶ。（4）タバコによる健康被害について学び、禁煙の意義を考察できる。（5）薬物やアルコールの代謝について、肝臓を中心とした解毒機構を学ぶ。アルコールによる肝障害、アルコール中毒の症状や対処法について理解し、それらの予防について考察することができる。（6）肥満、糖尿病、メタボリック症候群など生活習慣に関連する病気について基本的な医学知識を学び、それらの予防についても考察することができる。
41	教養			英語Ⅱ発展A a	1	トゥラダール アスタ	全研本社株式会社 英語非常勤講師 園芸学、英語教育 アジアの都市部での食糧生産及び緑化事情	This course is designed to prepare students for a variety of formal presentations. Topics will include cultural conventions and speech, perceptions of others, verbal and nonverbal messages and techniques of oral presentation and persuasion. Students will learn how to research, outline, highlight and review while delivering a presentation in public. Required preparation and review for the class: 1) Research the topic of your speech. Prepare and submit a preparation form (30 minutes) 2) Review by practicing your speech before delivery in class. (15 minutes) During the first 3 classes, students will learn the basics of making a good presentation. Examples of bad presentations will be discussed. Then each student will make a 12-minute presentation on a topic of their choice. Other students will evaluate the student who made the presentation. Lastly there will be group evaluation of each presentation. Students are required to use power-point slides or visual aids such as photos, charts, pictures, etc during the speech.
42	教養			英語Ⅱ発展B	1	マクダニエル フロイド	三重県外国語指導助手（英語）	I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.
43	教養					リチャーズ ジョン	Mississippi School of English	I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.
44	教養			英語Ⅱ発展C	1	リチャーズ ジョン	Mississippi School of English	In this course, students will learn how to improve their writing. We will accomplish this by studying what makes up a paragraph and an essay. Emphasis will be placed on brainstorming, analyzing a paragraph, working on content, organizing their ideas, and presenting their ideas in well structured writing assignments. The main focus of this course is to teach students to how to generate topics, write cohesive paragraphs, and organize them into clear, logical expository compositions.

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
45	教養			英語Ⅱ発展D	1	マクダニエル フロイド	三重県外国語指導助手（英語）	Students will study and practice communicative English for use in international business. With a strong focus on listening, speaking, and writing. Speaking and listening skills will be taught via pair, work group based projects, and social media. The skills to be developed in this course are how to conduct oneself in small and large groups in a business setting. Students will be expected to complete written coursework and interact with fellow students in small and large group discussions and projects. Evaluating peers and giving feedback will be expected.
46	教養					リチャーズ ジョン	Mississippi School of English	Students will study and practice communicative English for use in international business. With a strong focus on listening, speaking, and writing. Speaking and listening skills will be taught via pair, work group based projects, and social media. The skills to be developed in this course are how to conduct oneself in small and large groups in a business setting. Students will be expected to complete written coursework and interact with fellow students in small and large group discussions and projects. Evaluating peers and giving feedback will be expected.
47	教養			化学A	2	村田 繁	日本メクトロン株式会社 KHネオケム株式会社（旧社名：協和発酵ケミカル株式会社） 【KHネオケムは、化学技術と知識を基盤に、価値ある素材とサービスを安定的に供給することにより、世界の人の豊かな暮らしに貢献…】	化学工業の重要性を理解したうえで、化学の基礎を学び、その上で改めて現代の化学工業、製品への理解を深める。化学製品の価格、化学企業の収益性、環境や品質への要求等を学ぶことで化学工業を経済的な視点からも理解する。併せて、企業における必要なスキルの例についても解説する。理系・文系を問わず、化学の基礎を学んだうえで、化学に立脚する幅広い分野の化学工業に対する理解を深め、現代社会における化学の役割、及び重要性を認識する。加えて、講師の村田は化学企業の卒業生である。化学分野に席を置いた企業人の視点から、企業で求められるスキルなど、社会人として活躍するために参考となる情報を提供する。
48	教養			学習支援実践	2	長濱 文与	久留米医師会看護専門学校 非常勤講師 筑紫看護高等専門学校 非常勤講師 医療福祉専門学校 緑生館 非常勤講師 教育心理学、協同教育 学習者の協同に対する認識が学習活動に及ぼす影響	授業におけるファシリテーションの考え方や具体的な視点について学び、それらを基盤として「スタートアップセミナー」におけるファシリテーション実践を行う。「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」を総合した「生きる力」を自ら活用し、他者を支援する力を育成する。「スタートアップセミナー」受講生の学習活動を効果的に支援できるようにする。 1. 「スタートアップセミナー」の目的を説明できる。2. 授業におけるファシリテーションの考え方や具体的な視点について説明できる。3. 2. を基盤とした初歩的なファシリテーションができる。4. ファシリテーションに関する学習成果をまとめ、発表できる。
49	教養			環境学A	2	トゥラダール アスタ	全研本社株式会社 英語非常勤講師 園芸学、英語教育 アジアの都市部での食糧生産及び緑化事情	Plants are at the base of our ecosystem so conserving plant bio resources is important for survival of life on earth. Gaining knowledge about plant biology can help us address important global issues we face today like population explosion, food insecurity, pollution, climate change etc. This course is designed to deepen our knowledge about plant biodiversity and how humans can benefit from it. It aims to educate students about the need for conservation and sustainable use of these resource The purpose of this course is to introduce the world of plants and its role in human development. It helps students gain in-depth knowledge about how human civilizations have flourished by utilizing plant bio resources and developed modern agriculture, from the time of plant hunters to the present day, when we can easily consume food produced in different parts of the world. Topics like plant breeding, modern technology in food production, plant diversity conservation, plant physiology and anatomy will be focused. Students will learn to research, write essays, perform peer evaluation and make short presentations in English.
50	教養					間島 順哉	オフィスM（審査活動） 株式会社ICS（コンサル）	環境先進大学 三重大学として取り組んでいる環境マネジメントシステム（ISO14001）の知識と審査技術の取得をする。最終的に学内資格の認定を受け、実際の三重大学環境内部監査に携わる。 環境内部監査員として三重大学の環境内部監査に携わることが出来る。 三重大学が取り組む環境マネジメントシステムを理解し、環境取り組みを監査する力量を身に付ける。最終目標は学内資格「三重大学環境内部監査員」の認定を受け大学の環境内部監査に貢献する。
51	教養			現代科学理解特殊講義	2	福田 知子	企業（営業）、博物館研究員	生物関係の話題は一般のニュースの中では目にすることが比較の少なく、ニュースになったものも背景となる知識がないと分かりにくいものが多い。この授業では、生物関係の話題の、各自による読解、グループ活動を通じて、生物をさまざまな観点から考え、理解を深める機会とする。具体的には2回をセットとし、1回目に課題となる話題を読んで、その生物や研究の特色などをグループごとに議論・調査して掘り下げ、2回目に発表・質疑応答を行う。 この授業の目的は、個々の話題について1人1人が考え、話し合い、調べて発表するという過程を通じて、生物関係のさまざまな話題について面白さ・問題点などを感じられるようになることである。また、発表、質疑応答を通じて、いろいろな現象・疑問に触れ、自分の知識・考え方を深めることも目標となる。
52	教養			現代社会理解特殊講義	2	林原 玲洋	一般社団法人 神奈川人権センター 特別研究員 社会学（コミュニケーション論・社会問題論・レトリック論） コミュニケーション齟齬の研究	男女共同参画について多面から考え、活動できるよう、社会のさまざまな分野における男女共同参画推進活動等について学ぶ。本学教員とともに自治体職員等の非常勤講師を交えて指導する。 男女共同参画社会を実現するには何をすべきかを考えさせ、意識向上を図る。 男女共同参画社会について理解する。社会の様々な分野における男女共同参画に関する知識やノウハウを修得する。男女共同参画社会の実現に向けて主体的に活動できるようにする。
53	教養					西浦 尚夫	（公財）三重北勢地域地場産業振興センター	三重県内には特定産業の中小企業が集積することで産地を形成し、地域独自の製品を広く国内、海外に生産・販売している地場産業がある。地場産業は地域の歴史、文化を反映させながら、地域を代表する製品を創造し、地域内に一つの経済循環をもたらすことで、地域経済の発展に寄与してきた。しかしながら、近年は少子高齢化を背景に人口減少が進んでいることで職人不足等の課題が生じ、産地衰退が顕著である。本授業では、三重県の地場産業に焦点をあて、個々の地場産業の実態に詳しいゲストスピーカーに講義を行ってもらうことを通して、地場産業への理解を深め、各産業が抱える課題の発見と、それへの実現可能な解決策を提案する能力を修得する。三重県内の地場産業の発展過程や生産・流通・販売構造等を産業論の観点から事前にレポートの作成をしてもらい、地場産業について深く理解した上で、現場をよく知るゲストスピーカーの講義を受け、データだけではなく現場の状況についても把握し、各産業企業が抱える課題について実現可能な解決策を提案する能力を修得する。さらに、三重県内の地場産業の良さを他者に自分の言葉で説明する表現力、物事を根拠づけて論理的に判断する論理的思考力の修得を目指す。
54	教養					石垣 弘美	三重県庁入庁（技術職員） （公財）三重県文化振興事業団三重県男女共同参画センター所長	男女共同参画について多面から考え、活動できるよう、社会のさまざまな分野における男女共同参画推進活動等について学ぶ。本学教員とともに自治体職員等の非常勤講師を交えて指導する。 男女共同参画社会を実現するには何をすべきかを考えさせ、意識向上を図る。 男女共同参画社会について理解する。社会の様々な分野における男女共同参画に関する知識やノウハウを修得する。男女共同参画社会の実現に向けて主体的に活動できるようにする。

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
55	教養					奥田 久春	独立行政法人国際協力機構 ・青年海外協力隊-シンパエ ・インドネシア高等教育開発計画PJ短期専門家 ・サモア企画調査員 比較・国際教育学、国際教育協力論、教育課程論 オセアニア島嶼国の教育と国際協力	社会や科学技術の発展著しい今日の国際社会において、なおも経済格差、教育、貧困、紛争、環境や自然災害、感染症など多くの課題がある。最近では地球規模の課題として認識されるようになってきており（MDGsやSDGs）、日本も先進国の一員として独自に、また国際機関や他ドナー、NGOなど様々なアクターとともに国際協力を展開している。本授業では、開発援助の基礎理論と潮流、基礎教育・高等教育といった教育分野、環境保全、平和構築、貧困やジェンダーなどのテーマ別の課題、またアフリカやアジアといった地域別の課題において、日本を中心とした国際協力の取り組みについて基本的な知識や考え方について学ぶ。そしてSDGsを踏まえつつ新たな国際協力の可能性について考えていく。本授業では講義に加え、国際協力の現場に様々な立場で関わるJICA職員の方やNGOの方、本学教員をゲストスピーカーとしてお招きし、理論と実践について考えていくとともに自身のキャリア形成への気づきを得るようになる。またグループ・ディスカッションを通して国際協力手法も学ぶようにしている。授業全体を通して、従来の先進国と開発途上国という枠組みを超えたグローバルな視野を得ることを最終目的とする。教育分野、貧困、環境、平和構築といった様々なグローバル 이슈と途上国の開発課題について基本的な知識を得る。アジアやアフリカなど地域別の課題の特徴や構造を理解する。・日本および国際社会の様々なアクター（政府、市民社会、民間企業、国際機関、NGO等）による国際協力の取り組みについて理解する。・国際協力の最前線で取り組む実務者による体験談を通して、国際協力や国際ボランティアに取り組むためのきっかけを得る。・開発の諸問題を踏まえつつ、国際協力の取り組みについて自ら考える思考力を高める。
56	教養			国際理解特殊講義	2	トゥラダール アスタ	全研本社株式会社 英語非常勤講師 園芸学、英語教育 アジアの都市部での食糧生産及び緑化事情	1) To understand the basic concept of Sustainable Development (SD), the environmental, social and economic dimensions. 2) To know the history of the SD concept. 3) To be able to discuss the conflicts involved in the SD concept on a global scale. 4) To be familiar with efficiency and sufficiency concepts of SD. 5) To be able to discuss the advantages and disadvantages of instruments for SD. 6) To understand the SD challenge for companies, their responsibilities and potentials for action. After taking this class, students would have researched current trends in the field of Sustainable Development in the world and grasp the direction it is headed. They will understand how our current judgments and actions can affect the future generations.
57	教養					マクダニエル フロイド	三重県外国語指導助手（英語）	I am aiming at teaching a skill: not merely getting some information. Students can "get information" by reading a book. To develop this writing skill, students are expected to write and participate in conversation during class (every week). Students will also develop their intellects when learning to write in an engaging and/or persuasive manner. Finally, students will learn to become sensitive to the different English writing styles. Upon finishing this class, students should be able to confidently (1) write short essays in English in proper English writing styles, (2) revise their own essays - and the essays of others - for improvement beyond mere spelling and grammar, and (3) understand the difference between writing a personal introduction, telling a narrative (both first term), giving examples to illustrate a point, and giving reasons to support/defend a position (both second term).
58	教養			社会学A	2	林原 玲洋	一般社団法人 神奈川人権センター 特別研究員 社会学（コミュニケーション論・社会問題論・レトリック論） コミュニケーション齟齬の研究	政治学・法学・経済学などと比べて後発の社会科学である社会学は、全体像をつかむことが難しい学問です。この授業では、多くの社会学者が共有する社会学的思考法（ソシオロジカル・シンキング）に着目することで、社会学の全体像を示したいとおもいます。社会学のみならず、政治学・法学・経済学も含めたすべての社会科学には1つの根本問題があります。それは「近代社会とはなにか」という問いです。この大きな問いをどのような問いに切り分け、どのような答えを出すのか。ここに、それぞれの社会科学に固有の思考法が発揮されます。この授業では、「近代社会とはなにか」という社会科学の根本問題に答えるため、古典期の社会学者がどのような問いを立て、どのような答えを出してきたかを、社会学史の流れに沿って理解すること【幅広い教養】を、学習の主たる目的とします。さらに、現代社会のさまざまなトピックに関心を持ち【感性】、関連する情報を収集して【論理的・批判的思考力】、社会学的な問いを立て【問題発見解決力】、その問いに答える意義を他者の視点から評価できるようにすること【共感】も、学習の目的としています。
59	教養			社会学B	2	林原 玲洋	一般社団法人 神奈川人権センター 特別研究員 社会学（コミュニケーション論・社会問題論・レトリック論） コミュニケーション齟齬の研究	この授業では、2〜3名の班を毎回ランダムに編成し、初学者向けに簡素化したディベートのルールに則って、さまざまな社会問題について論じる練習をします。ディベートとは、(1)「YES/NO」で答えられる問い（議題）を設定して肯定側と否定側に分かれ、(2)試合前に収集（リサーチ）しておいた証拠（エビデンス）にもとづいて、(3)対論者よりも自分の議論の方が優れていることを示し、(4)第三者である審判（ジャッジ）を説得する。⑤知的ゲーム（明示的なルールを持つ遊び）です。討議力の訓練に直した方法ではあるのですが、初学者が本格的なディベートを実施するには、2つの点で困難があります。第一に、反論や判定にあたっては、相手かどのような議論を構築しているのか、その構造を正確に把握する必要があるのですが、耳で聴いてメモ（フロッピーシート）を取るという方式で判定を達成できるようにするのは、相当の上級者になってやうです。第二に、通常は試合前にリサーチをおこなうのですが、試合で争われることになる論点をあらかじめ想定し、それらを例証/反証する証拠をひとつひとつ集めるためには、相当の準備と調査が必要になります。そこで、この授業では、初学者向けに講師が考案した「論証ゲーム」という方式で、ディベートの練習をおこないます。論証ゲームとは、論証スクリプト（議論の要素を定義する穴埋め式の台本）に従ってプレイヤーが交替で発言しながら、論証マップ（議論の構造をあらわすマインドマップ）を協同で描き、より複雑な（広く・深い）議論を目指すものです。また、リサーチは、試合を通じて発言を持った論点についてのみ、試合後におこなうものとし、
60	教養			障がい学生支援実践 / 現代社会理解実践S	2	前川 賢一	特定非営利活動法人アイパートナー 視覚障害者生活訓練指導者の資質向上、人材育成のため、スーパーバイザーとして同法人に所属。	今日、フーマライゼーション（あらゆる活動にすべての人が平等に参加できる）社会の実現が求められている。大学への進学も社会参加の一つと捉えた場合、障がいのある学生の修学について、その人の疾病や機能の問題だけでなく、教育支援や生活支援についても考える必要がある。この授業では、さまざまな障がいの実態について実習形式で学ぶとともに、事例検討を通して障がい学生支援が障がい学生のためだけの支援ではなく、すべての学生にとって教育的な価値があるということを理解することを目的とする。 1.障がいについての正しい理解ができるようになることを目的とする。2.障がい学生の自立につながる支援について学ぶ。3.三重大学の資源や個性、歴史を活かした支援のあり方について考えることができるようになる。 1.さまざまな障がい（視覚・聴覚・肢体不自由等）について、講義や実習を通して理解できる。2.障がい学生にとって必要とされる支援の内容について理解できる。3.三重大学における障がい学生支援を充実するための方策について考えることができる。
61	教養			情報科学B	2	井岡 幹博	日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所勤務（研究員）	〇プログラミングを通して、計算機におけるデータの内部表現、数値計算の初歩を実習する。 簡単な数値計算プログラムを作成できるようにする。
62	教養			情報科学C	2	井岡 幹博	日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所勤務（研究員）	〇プログラミングを通して、計算機におけるデータの内部表現、数値計算の初歩を実習する。 簡単な数値計算プログラムを作成できるようにする。
63	教養			心理学A	2	廣岡 雅子	三重県松阪市幼児相談員（嘱託） 津市教育委員会スクールカウンセラー（非常勤）	学生としても社会人としても適応的人間関係を構築できる態度を身につけるために、人間の社会心理的発達・心理的健康・対人心理・集団心理・アサーション・コミュニケーションスキル等を理解する。 人間の心の個別性と法則性を理解した上で、自己・他者・集団について心理学的視点から説明できる。人と良好な関係を築くためのポイントを説明でき、日常で実践できる。
66	教養					南 学	広島福祉専門学校 非常勤講師、呉市医師会看護専門学校 非常勤講師 教育心理学、発達心理学 思考をうながすゲーム教材の開発	心理学は、人の「こころ」を研究対象とし、それを客観的に明らかにしていく学問領域です。人はみなそれぞれ自分の「こころ」をもっていますが、それを客観的に見るというのはそう簡単ではありません。本授業では、「こころのしくみ」や「こころのクセ」について述べます。 人間の心に関する基礎的な知識をえる。多角的な視点から人の心をとらえる習慣ができる。 「こころ」を対象化し、客観的にとらえることができる。「こころのしくみ」や「こころのクセ」について正確な理解と知識をえる。
67	教養			心理学F	2	中西 千織	学校法人珪山学園日本医療福祉専門学校非常勤講師（「人間発達学」担当） 三重介護福祉専門学校非常勤講師（「老人の心理」「老化と発達の理解」担当）	人間の「こころ」の働きについて、発達の視点を中心として様々なトピックをとりあげそれぞれについて掘り下げながら理解を深めていく。中でも主に言語、認知、社会、自己を取り上げる。 人について心理学的な視点から理解を深めることを目的とする。 人間の「こころ」の働きや発達、関連する問題についての基本的な知識を得るとともに、実際の問題について自ら考えられるようになることを最終的な到達目標とする。

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
69	教養			数理科学E	2	岩本 隆宏	四日市高等学校教諭 鳥羽高等学校教諭 津高等学校教諭 水産高等学校教頭 松阪高等学校教頭 宇治山田高等学校教頭 伊勢高等学校教頭 (数学)	①確率モデル ②確率に関する基本的概念(条件付き確率、確率分布と期待値)を理解してもらうことを目的に、身近で具体的な問題を考えます。多くの高校で習っていない数学Bの『確率分布と統計的な推測』もカバーします。 数学で身につけるやわらかい思考力のために確率に関わる部分を学びます。数学というと、きっちり定まった結果の出ってくるもの、という印象を持っている人がいるかも知れません。あいまいな現象のにも一定の法則性がある以上は、そこに数学があります。その見方が出来ることを目指します。 不確実さを数値することに關心をもってもらうこと。標準偏差が分かると使えること。日本統計学会公式認定・統計検定3級などの取得も可能になること。
70	教養			数理科学H	2	岩本 隆宏	四日市高等学校教諭 鳥羽高等学校教諭 津高等学校教諭 水産高等学校教頭 松阪高等学校教頭 宇治山田高等学校教頭 伊勢高等学校教頭 (数学)	①確率モデル ②確率に関する基本的概念(条件付き確率、確率分布と期待値)を理解してもらうことを目的に、身近で具体的な問題を考えます。多くの高校で習っていない数学Bの『確率分布と統計的な推測』もカバーします。 数学で身につけるやわらかい思考力のために確率に関わる部分を学びます。数学というと、きっちり定まった結果の出ってくるもの、という印象を持っている人がいるかも知れません。あいまいな現象のにも一定の法則性がある以上は、そこに数学があります。その見方が出来ることを目指します。 不確実さを数値することに關心をもってもらうこと。標準偏差が分かると使えること。日本統計学会公式認定・統計検定3級などの取得も可能になること。
71	教養			政治学A	2	庄司 貴由	一般財団法人シップ・アンド・オーシャン財団調査研究員 尖閣諸島、竹島など日本の島嶼問題に関わる資料の整理およびデータベースの構築	終戦から現在に至るまでの日本外交を歴史的に概説する。その際、人物(政治家、官僚など)、日本政治、国際政治の視点を適宜交えながら、複眼的に授業内容を構成していく。歴史の年号や出来事を単に覚えたり、イメージや感情で論じるのではなく、自らの問題意識、考え方を構築していくための歴史的な基礎を提供していきたい。 (1) 現代日本外交が抱える諸課題の原型を理解する。(2) 主な用語、概念など日本外交に関わる基礎知識を習得する。(3) 歴史的事例を踏まえながら、自らの考えを論理的に説明できるよう基礎を養う。
72	教養			政治学B	2	庄司 貴由	一般財団法人シップ・アンド・オーシャン財団調査研究員 尖閣諸島、竹島など日本の島嶼問題に関わる資料の整理およびデータベースの構築	TPP、消費税増税、領土問題、憲法改正など、現在、日本政治が直面している課題は枚挙に暇がない。有権者の一人として、これらの在り方を考えるために、政治学の基礎を体系的に学習する。その際、主として日本の政治を手掛かりとし、経済、社会、国際関係との接点を踏まえながら、授業を進めていく。現実政治を規定する政策構造を捉えるための基礎を提供する。 (1) 現代日本政治の諸相を理解する。(2) 主な用語、概念など政治に関わる基礎知識を習得する。(3) 授業で得られた知識に基づき、自らの考えを論理的に説明できるよう基礎を養う。
73	教養			政治学F	2	安間 優希	セクシュアルマイノリティ支援活動を精力的に始めるため、NPOPROUD LIFE'を設立(2012年法人化)。 2011年4月から2013年3月まで、名古屋男女平等参画審議会委員	①セクシャル・マイノリティ―レスビアン、ゲイ、トランスジェンダーの当事者に、自分の置かれた立場について話してもらい、学生の理解を深める。HIV問題や性と生殖の分離と重なりといった実践的な講義も提供する。②ジェンダーについて、法律、文学、環境といった切り口で考える。③ジェンダーについて、マイノリティ女性(障害のある女性、外国人女性、被差別部落出身女性)の立場からの考察を行う。国内でも得難い専門的講師陣によって、日本で「性」の問題を考える際の先端的な糸口の提供となる。 ジェンダーとセクシュアリティという「性」に関する問題で、自分の頭・自分の言葉で考えられるようになること。セクシャル・マイノリティやマイノリティ女性の受けている複合差別を理解できること。
74	教養					近藤 由香	QWRC(Queer and Women's Resource Center)スタッフ 特定非営利活動法人Queer and Women's Resource Center理事	①セクシャル・マイノリティ―レスビアン、ゲイ、トランスジェンダーの当事者に、自分の置かれた立場について話してもらい、学生の理解を深める。HIV問題や性と生殖の分離と重なりといった実践的な講義も提供する。②ジェンダーについて、法律、文学、環境といった切り口で考える。③ジェンダーについて、マイノリティ女性(障害のある女性、外国人女性、被差別部落出身女性)の立場からの考察を行う。国内でも得難い専門的講師陣によって、日本で「性」の問題を考える際の先端的な糸口の提供となる。 ジェンダーとセクシュアリティという「性」に関する問題で、自分の頭・自分の言葉で考えられるようになること。セクシャル・マイノリティやマイノリティ女性の受けている複合差別を理解できること。

No.	教養・専門	学部	学科・コース	授業科目名	単位数	教員氏名	実務経験の内容	実務経験と関連する授業内容を詳細に記入 (シラバスの記載内容の抜粋を含む)
75	教養			生物資源学B	2	飯尾 裕光	株式会社りねんしゃ（自営業）	現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つの概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。
76	教養					橋本 力男	三重県津市白山町で有機農業、特定の消費者に宅配 2017年から進紀有機花の生産販売	現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つの概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。
77	教養					岸川 政之	多気町まちの宝創造特命監	現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つの概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。
78	教養					小林 富雄	株式会社矢野経済研究所インダストリテクノロジー本部 環境エネルギー2課研究員 食品、マーケット	現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つの概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。
79	教養					森田 英治	農業（雨よびビニールハウス18aで野菜の無農薬栽培）	現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つの概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。
80	教養			地域学	2	川口 淳子	三重県立相可高等学校食物調理科非常勤講師 三重県立宇治山田商業高等学校家庭科非常勤講師	現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つの概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。
81	教養					野末 光	三重県庁上野農林事務所 三重県庁生産振興課 財団法人三重県農林水産支援センター（公社派遣） 三重県庁松阪農林事務所 三重県農業大学校（現在）	現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つの概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。
82	教養					奥田 久春	独立行政法人国際協力機構 ・青年海外協力隊-シンパブエ ・インドネシア高等教育開発計画PJ短期専門家 ・サモア企画調査員 比較・国際教育学、国際教育協力論、教育課程論 オセアニア島嶼国の教育と国際協力	この授業では、2～3名の班を毎回ランダムに編成し、初学者向けに簡素化したディベートのルールに則って、さまざまな社会問題について論じる練習をします。ディベートとは、(1)「YES/NO」で答えられる問い（論題）を設定して肯定側と否定側に分け、(2)試合前に収集（リサーチ）しておいた証拠（エビデンス）にもとづいて、(3)知論者よりも自分の議論の方が優れていることを示し、(4)第三者である審判（ジャッジ）を説得する。(5)知的ゲーム（明示的なルールを持つ遊び）です。討論力の訓練に適した方法ではあるのですが、初学者が本格的なディベートを実践するには、2つの点で困難があります。第一に、反論や判定にあたっては、相手がどのような議論を構えているのか、その構造を正確に把握する必要がありますが、耳で聴いてメモ（フロアシート）を取るという方式でこれを達成できるようにするのは、相当の上級者になってからです。第二に、通常は試合前にリサーチをおこなうのですが、試合で争われることになる論点をあらかじめ予想し、それらを例証/反証の証拠をひと通り集めるためには、相当の準備と調査が必要になります。そこで、この授業では、初学者向けに講師が考案した「論証ゲーム」という方式で、ディベートの練習をおこないます。論証ゲームとは、論証スクリプト（議論の要素を定義する穴埋め式の台本）に従ってプレイヤーが交替で発話しながら、論証マップ（議論の構造をあらわすマインドマップ）を協同で描き、より複雑な（広く・深い）議論を目指すものです。また、リサーチは、試合を通して関心を持った論点についてのみ、試合後におこなうものとします。
83	教養					奥田 久春	独立行政法人国際協力機構 ・青年海外協力隊-シンパブエ ・インドネシア高等教育開発計画PJ短期専門家 ・サモア企画調査員 比較・国際教育学、国際教育協力論、教育課程論 オセアニア島嶼国の教育と国際協力	地域学は、ある地域の社会、文化、教育、政治、環境などの諸特徴やその要因を分析して、地域の全体像や固有性を明らかにしていく学問である。本来、学際的な研究分野であるが、本授業ではオセアニア地域の学校教育をテーマに取り上げる。特にオーストラリアやニュージーランド、ポリネシア、メラネシア、ミクロネシアの国々の教育制度、学校文化、教育と社会・文化との関係、教育改革の流れについて、フィールド調査の感覚を持ち、文献や資料、画像・映像等を分析し、記述、整理、比較といった作業を進め、当該地域の学校教育の特徴を考察する。こうした研究方法は、多様な学問分野にも通じるものであり、様々な学部の学生の受講を歓迎したい。受講生が地域学の学び方を学び、それぞれの専門分野に応用するために、この授業で取り上げる以下の事柄を理解し、能力を高める1. 各国を理解するにあたって必要となる基礎知識を理解する。2. 各国の教育制度、学校文化、歴史的な経緯や改革の方向性、社会・文化との関係について、様々な情報を収集し、記述、整理、特徴を分析する中で、「なぜ？」という問題意識を持つようにする。3. 地域内での比較、他地域との比較、また慣れ親しんでいる日本（留学生の方は母国）とも比較して、相違点や共通点に気づくことや、それらを探究する楽しさを理解する。4. 各自、問題意識を深め、比較を通じた相違点や共通点の要因について更に分析し、地域の特徴を考察していくための思考力を高める。
84	教養			日本学	2	前田 憲司	企画編集者／芸能史研究家 ・株式会社赤福 催事文化部長（伊勢内宮前施設「おかげ横丁」の催事文化責任者） ・企画編集者／芸能史研究家（フリーランス）	日本に古くから伝わる「古典芸能」、信仰に関わる「民俗芸能」、広く親しまれてきた「大衆芸能」など、「芸能」の範囲は広い。「芸能」には、「笑い」「驚き」「涙」「気分の高まり」など、人の心に感動を与える力を秘めている。そして、日本文化の形式や、日本人に育まれてきた感性を垣間見ることができる。本授業では、映像資料を頻りに用いて授業をすすめ、さまざまな日本の芸能とその歴史を概観し、知識を広げるとともに、芸能から感じる「日本らしさ」とは何かを理解することを目的とする。 近世以前に起源を持ち現代に伝わるさまざまな日本の芸能に触れることにより、1. 日本の芸能の特質が理解ができる。2. 日本の芸能の歴史的背景と関連性を把握できる。3. 日本人の美的感覚や共感意識についての不易流行を知る。4. 芸能を通して「日本らしさ」とは何であったかを理解する。 1. 学生世代には敬遠されがちな日本の伝統芸能に、親しみと知的好奇心をいだかせることで、鑑賞や保存継承の機会に積極的に参加する。2. 外国人が興味を持つ日本伝統芸能の特質を紹介できる。3. 日本の伝統芸能について ①論理的思考力、創造力（歴史背景を理解することと現代への継承について） ②専門的な技術・技能（芸能に対するキュレーション能力）を持って、さまざまな学芸活動に活かす。

47科目

81（単位）